

「考え、議論する道徳」の授業づくり (中学校段階)

はじめに

生産年齢人口の減少、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により、社会構造や雇用環境は大きく急速に変化し、予測困難な時代を迎えています。

このような変化の中で、社会を構成する主体である一人一人が、高い倫理観をもち、人としての生き方や社会の在り方について自ら感じ、考え、他者と対話し協働しながら、よりよい方向を目指す資質・能力を備えることが求められており、道徳教育は、これまで以上に大きな役割を果たすことが期待されています。

こうした中、平成27年3月に小学校及び中学校の学習指導要領等の一部改正に伴い、「道徳の時間」は、「特別の教科 道徳」（以下、「道徳科」という。）と位置付けられ、答えが一つではない道徳的な課題を子ども一人一人が自分自身の問題と捉え、向き合う「考え、議論する道徳」への質的転換を図ることが求められています。これを受け、当センターにおいても、昨年度から道徳科の授業に関する調査研究を行ってまいりました。

昨年度は、小学校段階を対象として「問題意識をもつ」、「自分との関わりで考える」、「多面的・多角的に考える」、「自己の生き方について考えを深める」の四つの学習活動について工夫改善を行うことで、「考え、議論する道徳」への質的転換を図ることができるのではないかと考え、調査研究を進めました。その結果として、子どもの考えを広げたり深めたりするための発問や問い返しが重要であることが分かってきました。また、それと同時に、効果的な発問や問い返しを行う難しさも見えてきました。

今年度の「道徳科の授業に関する調査研究（中学校段階）」では、昨年度の調査研究を踏まえて、四つの学習活動を通して子どもの考えをより広げたり深めたりできるよう、「発問と問い返し」に焦点を当てて研究を進めました。「考え、議論する道徳」の授業への質的転換が求められている背景等の総論に加え、多様な考えを引き出すための発問づくりに役立つ「発問づくりシート」の様式や記入例を掲載しました。また、そのシートを活用して行った調査研究協力校における実践事例（授業づくりの過程を含む。）を紹介していますので、本冊子をぜひ御活用ください。

最後になりますが、調査研究を進めるにあたり、御指導、御助言を賜りました宇都宮大学大学院教育学研究科准教授 和井内 良樹先生、並びに御協力いただきました関係市町教育委員会及び調査研究協力校の先生方に対しまして、厚く御礼を申し上げます。

令和2（2020）年3月

栃木県総合教育センター所長
菅谷 毅

目 次

はじめに

第1章 「考え、議論する道徳」とは

- 1 「考え、議論する道徳」の授業で目指すこと・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- 2 「考え、議論する道徳」の授業づくりに向けて・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
- コラム 道徳的価値の理解について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

第2章 多様な考えを引き出すための発問づくり

- 1 「発問」と「発問の構成」について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
- 2 「考え、議論する道徳」の発問づくり・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16
- コラム 教材の中の「道徳的な問題」の捉え方について・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
- コラム 評価の考え方について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21
- 発問づくりシートの記入方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22

第3章 四つの学習活動を工夫した授業の実践事例～発問づくりシートを活用して～

- 「公平と不公平」(第1学年)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 26
 - C- (11) : 公正, 公平, 社会正義
- 「銀色のシャープペンシル」(第1学年)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 30
 - D- (22) : よりよく生きる喜び
- 「ゴール」(第2学年)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 34
 - B- (8) : 友情, 信頼
- 「コトコの涙」(第2学年)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 38
 - B- (9) : 相互理解, 寛容
- 「背筋をのばして」(第3学年)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 42
 - C- (14) : 家族愛, 家庭生活の充実
- 「好きな仕事か安定かなやんでいる」(第3学年)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 46
 - C- (13) : 勤労
- コラム 組織的に取り組む授業づくり・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 50

参考文献・・ 51

第1章

「考え、議論する道徳」とは

「考え、議論する道徳」の授業への質的転換が求められている背景や、「考え、議論する道徳」の授業の実現を目指して、「問題意識をもつ」、「自分との関わりで考える」、「物事を広い視野から多面的・多角的に考える」、「人間としての生き方について考えを深める」の四つの学習活動について、指導をどのように工夫改善するとよいか説明しています。

1

「考え、議論する道德」の授業で目指すこと



「考え、議論する道德」の授業って、どういう授業のことなんだろう？

「考え、議論する道德」の授業とは、答えが一つではない道徳的な課題について、発達の段階に応じて、一人一人の生徒が自分自身の問題と捉え、向き合っていけるような授業のことです。



なぜ「考え、議論する道德」の授業が求められているのかな？

これから生徒たちが生きていく時代は、決まった正解のない予測困難な時代になるでしょう。その中で、様々な文化や価値観を背景とする人々と相互に尊重し合いながら生きることや、人間としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した一人の人間として他者と共によりよく生きていくことが一層大切になってきます。その基盤となる道徳性を養うことが求められているからです。



「考え、議論する道德」の「考える」、「議論する」ってどういうことだろう？

この場合の、「考える」とは、生徒が主体的に自分との関わりから、ねらいとする道徳的価値について、自分の感じ方や考え方を明確にすることです。

「議論する」とは、生徒が多面的・多角的に考えて、多様な考え方や感じ方と出会い交流することです。そうすることで、自分の考え方や感じ方をより明確にすることができます。





どうすれば「考え、議論する道徳」の授業が実現できるのだろうか？

「特別の教科 道徳」（以下「道徳科」という。）の目標を見てみましょう。ここに、道徳科が目指す学習活動が示されています。



道徳科の目標

第1章総則の第1の2の（2）に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、①自己を見つめ、②物事を広い視野から多面的・多角的に考え、③人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科 道徳編』より

※①、②、③と下線は加筆した。

つまり…

道徳科が目指す学習活動

道徳的諸価値についての理解を基に

- ①自己を見つめる
- ②物事を広い視野から多面的・多角的に考える
- ③人間としての生き方についての考えを深める

学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。



なるほど！学習活動に着目して、学習指導の過程や指導方法を工夫した授業づくりを行うことで、「考え、議論する道徳」の授業への質的転換を目指すことができるんですね。

ここがポイント

人間としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した一人の人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うために、「考え、議論する道徳」の授業への質的転換を図ることが求められています。

平成28年12月に中央教育審議会が示した「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」に、「道徳教育においては、他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を育むため、答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の児童生徒が自分自身の問題と捉え、向き合う『考え、議論する道徳』を実現することが、『主体的・対話的で深い学び』を実現することになると考えられる。」と書かれています。

当センターでは、道徳科の目標と「主体的・対話的で深い学び」の視点を基に、「問題意識をもつ」、「自分との関わりで考える」、「物事を広い視野から多面的・多角的に考える」、「人間としての生き方について考えを深める」の四つの学習活動に着目し、これらを授業の中に設定して指導を工夫改善することにより、「考え、議論する道徳」の授業への質的転換を図ることができると考えました。

着目した四つの学習活動に関する指導

①「問題意識をもつ」

導入において、主体的な学びの実現のためにも主題や教材の内容に興味や関心だけでなく、本時の主題に対する問題意識をもたせて授業を展開できるようにする。

②「自分との関わりで考える」

主題に対する問題を自分との関わりとして、これまでの自分の経験やその時の感じ方、考え方と照らし合わせながら、深く考えることができるようにする。

③「物事を広い視野から多面的・多角的に考える」

諸事象の背景にある道徳的価値の多面性に着目し、様々な角度から総合的に考察することを通して、自分がいかに生きるかについて主体的に考えることができるようにする。

※「多面的・多角的に考える」とは、例えば、読み物教材に登場する様々な人物の立場で考えてみたり、登場人物を客観的に捉えて考えてみたりするなど、様々な面をもつ学習対象を、様々な角度から考えることです。多様な感じ方や考え方に接する中で、価値理解だけでなく、人間理解や他者理解も深めるなど、道徳的価値の理解につながります。

④「人間としての生き方について考えを深める」

人間について深く理解し、これを鏡として自己を深く見つめることを通して、主体的な判断に基づいて適切な行為を選択することや、人間としてのよりよい生き方について考えを深められるようにする。

・浅見 哲也「道徳科における主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」『初等教育資料 平成29年12月』を参考に作成しました。

①問題意識をもつ

生徒に問題意識をもたせるために、例えば、授業の導入で、主題や教材の内容に対して興味や関心を高めたり、道徳的価値の理解を基に自己を見つめられるように動機付けしたりすることが考えられます。

具体的な手立てとして、生徒の生活や経験などの実態に合わせ、本時で扱う道徳的価値と関連がある身近な問題や社会問題、教材に描かれている問題、学習課題などを導入段階で話題にすることで、生徒が問題意識をもち主体的に取り組めるように工夫することなどが考えられます。

具体的な手立ての工夫の例

アンケートの活用

○ねらいとする道徳的価値に関わる生活経験に関するアンケートを事前に行い、集計して分かりやすく提示し、問題意識をもてるようにする。

生活経験の発表や話し合いの場の設定

○ねらいとする道徳的価値に関わる生活経験の発表、話し合いの場などを設定し、生徒が考えてみたい、話し合ってみてみたいと思えるように発問を工夫し、問題意識をもてるようにする。

教科書等の教材の中に描かれている道徳的な問題を捉えさせる問いかけ

○教材の中でねらいとする道徳的価値に関わる問題について考えてみたい、話し合ってみてみたいという意識をもてるように発問を工夫することで、問題意識をもてるようにする。

「△△△（道徳的価値）について、どのように考えているか。」

「この教材では、どのようなことが問題となっているか。」

「いじめはよくないと分かっているしながら、どうしてなくなるしないのか。」

「きまりは何のためにあるのか。」

「『心の弱さ』とは、どういうことか。」 など

ねらいとする道徳的価値が含まれる画像や動画などの提示の工夫

○教材の中でねらいとする道徳的価値や、問題が生じる複数の道徳的価値が含まれる画像や動画を提示し、視覚的に捉えさせることにより、問題意識をもてるようにする。

②自分との関わりで考える

自分との関わりで考えることができるようにするために、生徒がこれまでの自分の経験やそのときの感じ方、考え方と照らし合わせ、さらに考えを深めることで、授業で学んだことが今後の生き方に生かされるようになると考えられます。

具体的な手立てとして、生徒の日常生活の経験や共通体験を想起させたり、生徒の実態を把握し意図的な指名をしたり、生徒自身の体験などを引き出せるように発問を工夫したりすることが考えられます。

具体的な手立ての工夫の例

直接体験や間接経験を出し合う場の設定

○ねらいとする道徳的価値に関わる直接体験や間接経験を話題にし、自分との関わりで振り返らせ、そこからの問題について考えることができるようにする。

場面絵などの活用

○教材によっては、登場人物が複数人登場したり、登場人物同士の関係性が複雑であったりして、生徒が教材の内容を理解しにくい場合がある。自分事として捉え、より深く理解できるようにするために場面絵の活用をする。同様にICTの活用も考えられる。

場面に応じた発問

- ねらいとする価値そのものを問う。
「本当の△△△とはどんなものか。」
- 登場人物などの心情を共感的に問う。
「～のとき□□□の心の中はどんなだったか。」
- 具体的な問題場面において、^{*}投影的に問う。^{*}登場人物に自分を置き換えて問うこと。
「もし、あなたが□□□だったらどうするか。」

役割演技等

○役割演技とは、資料の中の特定の場面や状況における登場人物を即興的に演じることである。演じることで実際の道徳的な問題場面を実感を伴って理解することにより、生徒が自分との関わりで道徳的価値について考えられるようにする。

意図的な指名

○意図的な指名をして、生徒から感じたことや考えたことを引き出し、広げたりつなげたりすることを通して、本時のねらいとする道徳的価値についての生徒の実態を把握したり、日常生活の中で経験したことや、学校での共通体験等で感じたことや考えたことを生徒たちに想起させたりできるようにする。

③物事を広い視野から多面的・多角的に考える

物事を広い視野から多面的・多角的に考えることができるようにするためには、特に、対話的な学びを工夫することが大切です。

対話をしやすくするための具体的な手立てとして、例えば、ペアやグループなどで、対話する相手の組合せを生徒の発達段階や実態に応じて工夫することが考えられます。また、対話する前に自分の考えがもてるように時間を確保したり、自分の考えを端的に表せるように、色違いのカードを用意したりするなどの工夫が考えられます。

他にも、他者と対話をしたくなるような発問や道徳的価値の多面性に気付けるような問い返し、考えを広げたり深めたりするための構造的な板書などといった工夫を行うことが考えられます。

中学生の時期は思春期に入り、友人関係に強い意味を見だし仲間や友達の評価を強く意識する反面、他の人との交流に消極的であったり、異性への興味関心も高まり意識したりすることで、自分の考えを表現することに抵抗が出てくる時期でもあります。

生徒にとって、学級が「安心できる場」「自信をもって活動できる場」であるように心がけましょう。また、生徒の発言を傾聴し受け止め、共に考え、共に語り合えるようにしましょう。



具体的な手立ての工夫の例

意思表示のカード、教具や付箋などの活用

- 対話する際に、登場人物や状況など、どのような立場から考えたのかを相手に分かるようにするために、意思表示のカードやネームプレートなどの教具を活用する。
- 考えたことや感じたことなどを付箋に書き、貼ったり剥がしたりしながら話し合い、様々な考え方や感じ方を整理できるようにする。

問い返し

- 考えの根拠を確かめる問い返しを行い、答えは同じでもその根底にある考え方や感じ方は様々であることに気付かせるようにする。
「なぜ、そう考えたのですか？」
(いくつかの考えを整理して)「どの考えが大切だと思いますか？」など。
- 考えが広がらなかつたり表面的だつたりした場合には、機転を促す問い返しをする。
「本当にそうなのですか？」
「～という考え方もあるがどうでしょうか？」など。

多様な発問

○ねらいとする道徳的価値に直接結び付く中心発問では、物事を広い視野から多面的・多角的に考えられるような発問として、次のようなものが考えられる。

発問例

条件や状況を変えて考えられるようにする発問

もし●●●だったら、どうしたと思いますか？
もし■■■だったら、どうしたと思いますか？

もしも、●●●だったら…。
もしも、■■■だったら…。

それぞれの立場に立って考えられようにする発問

Aさんの立場から考えたらどう思いますか？
また、Bさんの立場から考えたらどう思いますか？
それぞれの立場になって考えてみよう。

Aさんの立場だったら…。
Bさんの立場だったら…。

「以前」や「これから」について考えられるようにする発問

Aさんは、以前はどんな思いだったのでしょうか？
これからAさんは、どうすると思いますか？

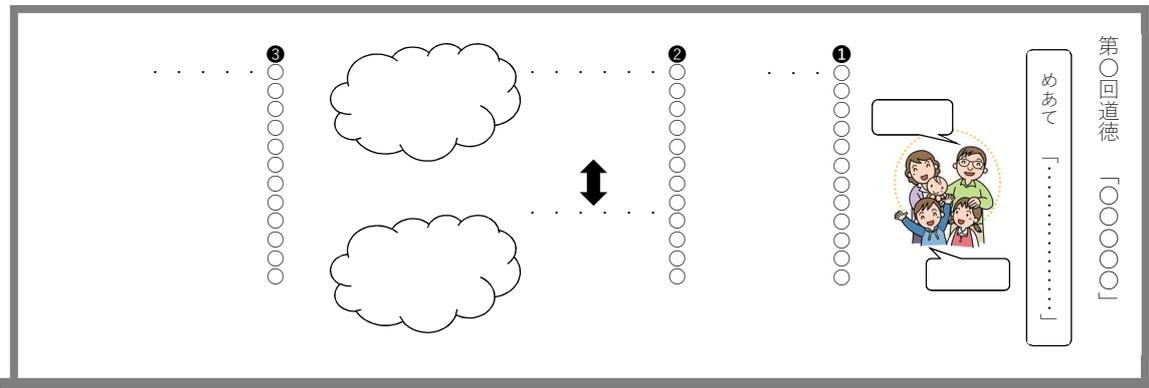
以前はどうだったのだろう…。
これからどうなるのだろう…。

A 過去
A 未来

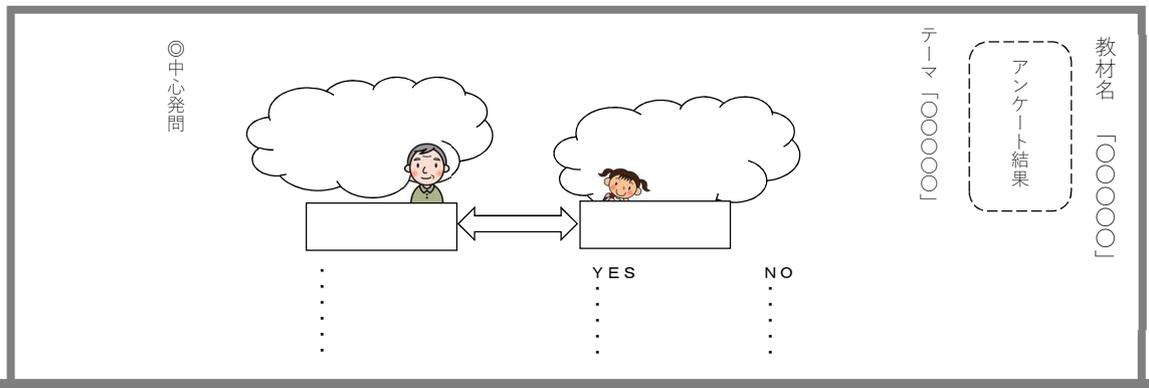
教材に応じた構造的な板書の構成

- 教材の内容を時系列で示しながらそれに対する生徒の思考の変化を示す。
- 複数の登場人物の立場から考えた意見を視覚的に比較できるように示す。
- ウェビング法（連想を広げていく手法。一つのキーワードから思い付く言葉を書き出し、次々とつなげ、思考を広げる方法）などを用いて、様々な考え方や感じ方を視覚化し、それぞれをつなげたり、比べたりできるようにする。

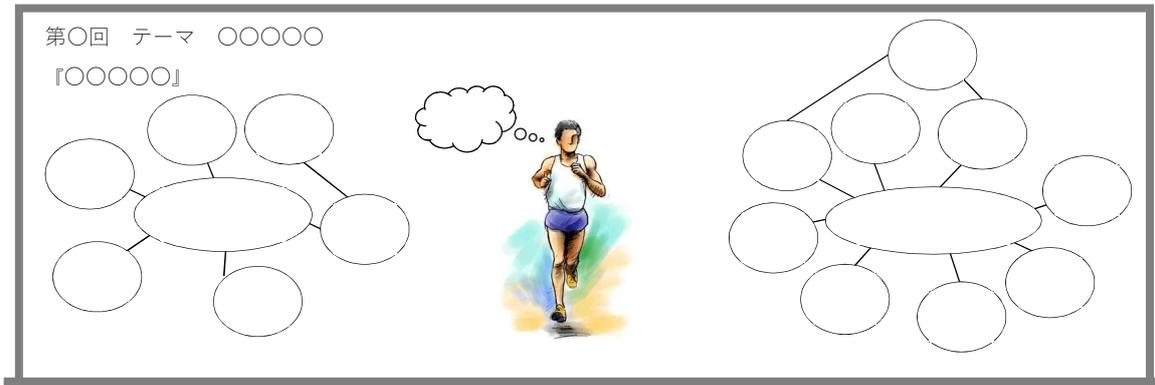
■時系列で示しながら思考の流れを表した板書例



■視覚的に意見を比較できるようにした板書例



■ウェビングマップの板書例



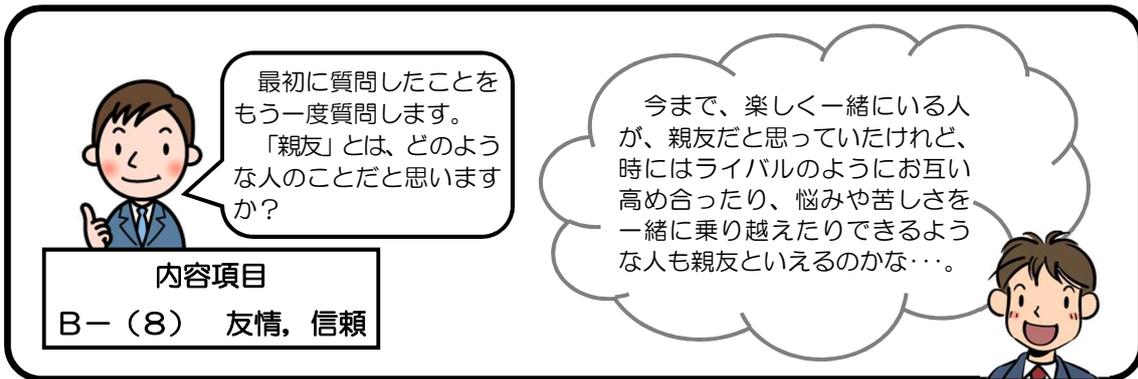
④人間としての生き方について考えを深める

人間としての生き方について考えを深めることができるようにするためには、生徒が道徳的価値に関わる事象を自分自身の問題として受け止めたり、他者の多様な感じ方や考え方に触れ、身近な集団の中での自分の特徴に気付いたりするなどの学習活動の工夫を通して、自分と向き合い真剣に考えられるようにしていくことが考えられます。

具体的な手立てとして、生徒が、これまでの生き方を振り返ったり、これからの生き方に希望をもったりすることができるような時間を確保し、書く活動などを取り入れ、記録を集積することなどが考えられます。また、学習の過程や成果などの記録（ポートフォリオ）を計画的にファイル等を集積することにより、生徒が学習状況を自ら把握し振り返ることができるように工夫することなどが考えられます。

具体的な手立ての工夫の例

発問の工夫



最初に質問したことをもう一度質問します。
「親友」とは、どのような人のことだと思いますか？

今まで、楽しく一緒にいる人が、親友だと思っていたけれど、時にはライバルのようにお互い高め合ったり、悩みや苦しさを一緒に乗り越えたりできるような人も親友といえるのかな…。

内容項目
B－（8） 友情、信頼

振り返りの時間の確保

- 十分な時間を確保し、ワークシートなどに書く活動を取り入れ、これまでの自分やこれからの自分の生き方などについて書きながら内省できるようにする。

教師の説話

- 道徳的価値に関連した、教師自身が体験した話や偉人の名言、ことわざ、詩、写真、記事（新聞やテレビ、インターネット）などを紹介する。その際、教師の道徳的価値の押し付けにならないように注意する。

保護者やゲストティーチャーの協力

- 道徳的価値に関わるエピソードを、様々な立場から紹介してもらえようように設定する。

音楽や映像の活用

- これまでの自分やこれからの自分について内省できるように、道徳的価値に関連した音楽や映像を活用する。

● 道徳的価値の理解について

道徳的価値とは、「よりよく生きるために必要とされるものであり、人間としての在り方や生き方の礎となるもの」です。

生徒が今後、様々な問題場面に出合った際に、その状況に応じて人間としての生き方を考え、主体的な判断に基づいて道徳的実践を行えるようにするためには、教師は道徳的価値について理解し、生徒たちが価値理解と同時に人間理解や他者理解も深めていけるようにすることが必要です。

価値理解 人間としてよりよく生きる上で大切なことであることを理解すること

理解したと思われる反応の例 B－(8) 友情, 信頼



「お互いに信頼して個性を認め合い、相手への尊敬や幸せを願う思いが大切なんだ。」



「男女で考え方が違ったりすることがあるけれど、お互いに相手のよさを認め合うことが大切ね。」

人間理解 道徳的価値は大切であってもなかなか実現することができない人間の弱さなどを理解すること

理解したと思われる反応の例 B－(8) 友情, 信頼



「本当は友達と仲良くしたいけれど、自分よりもいろんなことができるから、悔しくて嫌いになったり、意見が合わなくてケンカしたりしてしまうこともあるな。」



「仲のよい友達に、言い過ぎてしまったり、意見が合わないでケンカをしたときには、本当は謝りたいけれど、なかなか謝ることができないのよね。」

他者理解 道徳的価値を実現したり、実現できなかったりする場合の感じ方、考え方は一つではない、多様であるということを前提として理解すること

理解したと思われる反応の例 B－(8) 友情, 信頼



「みんな考え方が違うね。」



「そういう考え方もあるのか。」



「その考え方も分かるな。」



「いろいろな考え方があるんだね。」

男女の友情は難しいと思う。同性同士でも難しいのに・・・。

お互いに信頼できたり、尊重できたりすれば、深い友情関係になれるのかな。



相手をきちんと理解できれば、異性でも友達になれると思う。

男女関係なく、励まし合ったり忠告し合ったりできるような人を大切にしたいな。

第2章

多様な考えを引き出すための発問づくり

生徒から多様な考えを引き出し、「考え、議論する道徳」の授業にしていくための、発問や発問の構成、教材の吟味や発問づくりの手順例、発問づくりシートの記入方法や記入例について説明しています。

「発問」と「発問の構成」について

四つの学習活動の中で、特に「自分との関わりで考える」や「物事を広い視野から多面的・多角的に考える」場面において、明確な意図や目的をもって発問や問い返しをすることで、生徒の考えをより広げたり深めたりすることができます。



道徳の授業で発問をすると、生徒は教科書の文章をそのまま発表することが多いんだよな……。何でだろう？

例えば、どのような発問をしていますか？



「主人公は、次にどうしたのでしょうか？」とか「主人公は、どのように思ったのでしょうか？」などかな……。確かに教材を読めば分かるような発問をしていることが多かったかもしれない……。

そのような発問によって、登場人物の行動や心情を読み取るだけの授業になっていたのかもしれないね。



どうすれば、登場人物の心情の読み取りだけでなく、考えを深め、道徳的価値に迫れるように発問をすることができるのかな？

まずは、どのような意図をもって発問をするかを考えることが大切です。そして、どのような場面で発問すればよいのか、授業全体での発問の構成を検討することも必要です。そのためには、教材をしっかりと吟味することがとても重要になります。



ここでは、「発問」と授業全体の「発問の構成」の例を紹介します。
 生徒の考えを広げたり深めたりするためには、教材を吟味し、教材を通して何を考えさせたいのか明確な意図や目的をもった上で、どのような場面でどのように発問や問い返しをするかを考えることが大切です。



● 「発問」と「発問の構成」の例

発問例と四つの学習活動との関わり	
導入	<p>問題意識に基づく発問（課題設定）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「〇〇」とは何だろう。 <p>問題意識をもつ</p> <p>自分との関わりで考える</p>
展開	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>多様な考えを導く発問</p> <p>人物の気持ち・考え（共感的に問う）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・～のときの□□の気持ちはどんなだろう。 ・～のところで□□はどんなことを考えただろう。 ・～のとき□□の心の中はどんなだったか。 ・～のときの□□と同じ気持ちになったことはないか。 <p>人物の在り方（生き方）・それに対する考え（分析的に問う・投影的に問う）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・□□が大切にしていることとは何だろう。 ・□□のような生き方についてどう思うか。 ・なぜ□□はそのような行動をしたのか。 ・□□の行動にはどんな意味があるのか。 ・もし□□だったらどうするか。 ・もし□□だったらどう考えるか。 <p>資料のテーマ・それに対する考え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・～はどんなところが問題か。 <p>ねらいとする道徳的価値そのもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本当の「〇〇」とはどんなものか。 ・「〇〇」についてどう考えるか。 </div> <div style="width: 50%; border-left: 1px solid black; padding-left: 10px;"> <p>問い返し 考えの根拠を問う発問</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜそう考えたのか。 ・（いくつかの考えを整理して）どれが大事だと思うか。 <p>自分との関わりで考える</p> <p>物事を広い視野から多面的・多角的に考える</p> <p>人間としての生き方について考えを深める</p> <p>問い返し 機転を促す発問（批判的に問う）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本当にそうなのか。 ・～といった別の見方もあるがどうか。 ・□□は本当にそのようにしてよかったのか。 ・～という考えにあなたは賛成か、反対か。 </div> </div>
終末	<p>問題意識に基づく発問（自己の振り返り）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「〇〇」とは何だろう。 <p>自分との関わりで考える</p> <p>課題設定と自己の振り返りとの関連性を高める（授業の入口と出口を近づける）</p>

発問の構成例作成に当たり、宇都宮大学大学院教育学研究科 和井内 良樹 准教授の以下の著書を参考にしました。

- ・『特別の教科 道徳』『授業が変わる！新学習指導要領ハンドブック 中学校社会編』（平成 29 年）時事通信社
- ・『特別の教科 道徳』について考える』『下野教育 No. 759』（平成 30 年）栃木県連合教育会

教材に含まれる道徳的価値の理解を基に、人間としての生き方についての自覚を深めることを目指し、「問題意識をもつ」、「自分との関わりで考える」、「物事を広い視野から多面的・多角的に考える」、「人間としての生き方について考えを深める」の四つの学習活動を授業に位置付けました。生徒が「考え、議論」できるようにするために、どのように発問をつくれればよいのか、そのために教材をどう吟味すればよいのか、ここでは、手順例を示しながら説明します。なお、ここで示した手順に基づき、P. 22、23にある「発問づくりシート」で整理することができます。

1 教材を読み吟味する

教材を吟味するとは、教科用図書や補助教材の題材に、生徒に考えさせたい道徳的価値に関わる事項がどのように含まれているかを授業者が検討することです。検討する方法は様々ありますが、ここでは教材をどのような視点で読み込み、どのように吟味をするかの例を紹介します。

時系列的な吟味	<p>○教材全体の流れを捉える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時系列で全体を見た場合に、何がどのように変化したかを把握する。 ・時系列で全体を見た場合に、どの場面でどのようなことが問題となるかを把握する。
構造的な吟味	<p>○人間関係、内容項目の関係を捉え、生徒が多面的・多角的に考える場面を押さえる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の関係性を整理しながら、言動や考え方の違いを把握する。 ・問題となる場面において、どのような内容項目と関連するか把握する。
生徒の視点からの吟味	<p>○生徒が何について問題と感じ取るか、何を疑問に思うかなどを想定する（問題意識）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材のどのような場面で、どのようなことが問題と感じるか、話したいと感じるか考える。 <p>○生徒が、教材からどのように自分との関わりで考えるのかを想定する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どの登場人物のどのような言動や考え方に共感しやすいか考える。

2

内容項目から道徳的価値や具体的な指導について確認する

全ての内容項目は、道徳科を要として学校の教育活動全体を通じて行われる道徳教育における学習の基本となるものです。内容項目は、中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説「第 3 章 第 2 節 内容項目の指導の観点」に示されています。内容の記述に当たっては、その内容項目を概観するとともに、内容項目の全体像を把握することにも資するよう、その内容を端的に表す言葉を付記したのを見出しにして、内容項目ごとの概要、指導の要点を示しています。

道徳科の授業を行う際には、教材に含まれる道徳的価値を十分に理解しておく必要があります。



内容項目は、道徳的価値を含む内容を、短い文章で表現したものです。内容項目「2 節度、節制」を例に見てみましょう。

なるほど！
これが道徳的価値
なんですね！



内容項目
望ましい生活習慣を身に付け、心身の健康の増進を図り、節度を守り節制に心掛け、安全で調和のある生活をする。

道徳的価値
○望ましい生活習慣を身に付ける。
○心身の健康の増進を図る。
○節度を守り節制に心掛ける。
○安全で調和のある生活をする。



道徳科の内容は、次のような構成になっています。
※中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 P. 28

2 節度、節制

望ましい生活習慣を身に付け、心身の健康の増進を図り、節度を守り節制に心掛け、安全で調和のある生活をする。

(小学校)【節度、節制】
(第 1 学年及び第 2 学年) 健康や安全に気を付け、物や金銭を大切に、身の回りを整え、わがままをしないで、規則正しい生活すること。
(第 3 学年及び第 4 学年) 自分でできることは自分でやり、安全に気を付け、よく考えて行動し、節度のある生活すること。
(第 5 学年及び第 6 学年) 安全に気を付けることや、生活習慣の大切さについて理解し、自分の生活を見直し、節度を守り節制に心掛けること。

(1) 内容項目の概要

「望ましい生活習慣を身に付け」とは、それを行うことで心身の健康の増進を図ることができる行為を、日常の生活において日々繰り返すことによって、殊更意識せずに行うことができるようになることである。「習慣は第二の天性」との言葉もあるように、その人の人となりに大きな影響を与えるものである。自己を保ち生きていく上で心身が健康であることは大切であり、食事・睡眠・運動の大切さについて改めて学ぶ必要がある。現代社会においては環境や生活様式の変化も大きく、情報機器の発達により若者の欲望や衝動を刺激するものも少なくない。自らの欲望や衝動の赴くままに行動してしまい、心身の健康を損ねることのないようにしなければならない。

そのためには、そうした状況に至らない適度な程度としての「節度」を意識し、その節度を超えないように欲望などを抑え、自己を統御する「節制」が求められる。節度と節制は、人間の感覚的な欲望の抑制を説いていると理解されるため、消極的に捉えられがちである。しかし、節度を守り節制に心掛けることは、望ましい生活習慣を身に付けることにつながっており、心身の健康を増進し、気力と活力に満ちあふれた生活を送ることができると考えられる。

積極的に捉え、

(2) 指導の要点

小学校の段階では、特に高学年で、基本的な生活習慣は心身の健康を維持増進し、活力のある生活を支えるものであることへの理解を深め、児童一人一人が自分の生活を振り返り、改善すべき点などについて進んで見直ししながら、望ましい生活習慣を積極的に築くとともに、自ら節度を守り節制に心掛けるように指導している。

中学校の段階では、入学して間もない時期には、望ましい生活習慣を築いていくという気持ちはあるが、しなければならぬことが増えて、ついついおろそかになりがちである。学年が上がるにつれて、心身ともに著しい発達を見せ、活力にあふれ意欲的に活動できるようになる。しかし、心と体の発達必ずしも均衡しているわけではないため、軽はずみな行動によって健康を損ねてしまったり、時間や物の価値を軽視してその活用を誤ったりするなど、衝動にかられた行動に陥ることもある。中学生になったという意識も働き、これまで身に付けてきた基本的な生活習慣や防災訓練、交通安全等の安全に関わる活動に對し、ためらったり、軽く考えたりすることも起きてくる。また、これまで身に付けてきた基本的な生活習慣に對して、外面的には反発や抵抗を示すこともある。

指導に当たっては、まず、小学校段階からの節度、節制の大切さについての理解を一層深めるとともに、生活全般にわたり安全に配慮して、心身の調和のある生活を送ることができるとともに、自ら節度を守り節制に心掛けるようにすることが大切である。

問題として捉えさせるだけでなく、自ら節度を守り節制に心掛けるよう指導することが大切である。

「(2) 指導の要点」には、小学校段階で指導していることが載っています。それを踏まえて授業ができるようにしましょう。

また、「指導に当たっては」以降には、指導する上で留意することが具体的に載っていますので、参考にしましょう。

「(1) 内容項目の概要」には、内容項目について詳しく説明されていますね。

3

中心発問を考える

中心発問とは、資料を通してねらいとする道徳的価値に関わって、生徒に最も考えさせたい場面での発問です。

授業をつくる際には、発問の構成を検討します。その際、最初に授業のねらいに深く関わる中心的な発問を考え、次にそれを生かすためにその前後の発問を考え、授業全体の流れを捉えるようにするという手順が有効な場合が多いと言われています。

中心発問を検討する際には、生徒に最も考えさせたい問題とする場面において、生徒の反応を想定しながら問い方などを考えることが大切です。

「二通の手紙」(私たちの道徳 中学校 文部科学省)
内容項目 C- (10) 遵法精神, 公徳心



「二通の手紙」では、元さんが判断したことを基に、社会における法やきまりの意義について考えられるような授業展開にしたいな。
中心場面は、「自由と責任」、「思いやり」、「遵法精神」などの複数の内容項目から考えることができるので、「元さんの対応の場面」を選ぶとどうだろうか。
中心発問で「あなたが元さんの立場だったら、どのように対応しますか？」と投影的に問うことで、ねらいに迫れるのではないかな？

中心発問に対し予想される生徒の反応



弟思いの優しいお姉さんの気持ちを考えると、姉弟を動物園に入れてしまうかもしれない。一緒について行ってあげて、ゾウとキリンだけ見たら帰るようにすると思う。



私だったら、弟思いの優しいお姉さんの気持ちを考えながら、お姉さんに動物園には、きまりがあることを優しく教えてあげたい。そして、動物園の割引券とかシールとかを渡して、お母さんと一緒に来てねと伝えようと思う。しかし、実際に言うとなると難しいと思う。泣かれたりしないか心配です。



姉弟に保護者同伴でないと入れないことや開園時間があることなど、動物園のきまりについてきちんと教えて、親と一緒に開園時間内に来てくださいと伝える。なぜそう考えたかという、例えば、閉園後に姉弟を入れて、それを見ていた別の人からも入れてくださいとお願いされたら、入れないと不公平になるから断れないと思う。そうすると、閉園時間のきまりの意味がなくなってしまうと思う。

4 中心発問を生かすための考えさせる場面や前後の発問や問い返しを考える

中心発問が決まったら、中心発問を生かせるように前後の発問や問い返しを検討します。検討する際には、生徒が自分との関わりで考えることができるような場面で、生徒が自分との関わりで考えられる発問になっているかどうか検討します。

また、物事を広い視野から多面的・多角的に考えることができる場面で、どのような発問や発問からの問い返しをすると多面的・多角的に考えることができるか検討をします。

「二通の手紙」(私たちの道徳 中学校 文部科学省)
 内容項目 C- (10) 遵法精神, 公徳心



中心発問で、問題について自分との関わりで考えたり、多面的・多角的に考えたりしたことを通して、法やきまりについて自分なりに納得できる考えへと深められるようにしたいな。
 中心発問で考えさせたいことに近づけるためには、まずは自分との関わりで考えることができるようにしたいな。

前



発問：元さんの判断に賛成ですか？ 反対ですか？
 問い返し：なぜ、そのように考えたのですか？

規則に反して姉弟を入園させた元さんの判断に賛成か反対か問うことで、これまでの経験や自身の判断基準を基にして自分との関わりで考えさせたいな。その理由を問い返すことで、より深められるのではないかな？



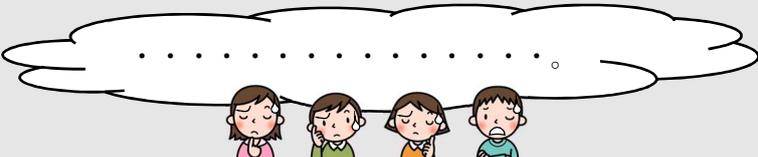
中心発問：あなたが元さんの立場だったら、どのように対応しますか？

後



問い返し：なぜ、そのような対応をするのか？
 他にどのような対応が考えられるだろうか？

人によって様々な対応があることや、同じ対応でも、違った道徳的価値から考えられていることに気付くことができるようにするために、なぜそのような対応をするのか、理由を問い返したり、他の対応を考えさせたりする。





教材の中の「道徳的な問題」の捉え方について

教材に描かれている「道徳的な問題」を生徒一人一人が自分自身の問題として捉え、考えを深めることができるような授業づくりを行う上では、「この教材にはどのような問題があるか」「生徒が問題として捉えることは何か」といったことを考えながら教材を吟味することが大切です。

教材にある「道徳的な問題」として、例えば、

- ㊦道徳的価値が実現されていないことに起因する問題
- ㊧道徳的価値についての理解が不十分又は誤解していることから生じる問題
- ㊨道徳的価値のことは理解しているが、それを実現しようとする自分とそうでない自分との葛藤から生じる問題
- ㊩複数の道徳的価値の間の対立から生じる問題

などが考えられます。教材を吟味する過程で、このような問題がどのように設定されているかを把握し、その問題に対する生徒の考えの根拠について問いかけたり、問題場面を自分に当てはめて考えることを促したり、問題場面における道徳的価値の意味を考えさせたりする発問や問い返しを考えていきます。

「二通の手紙」（私たちの道徳 中学校 文部科学省）を例にすると、次のように場面を捉え、授業づくりを行うことができると考えられます。

動物園の規則を守ることについての理解が不十分なことから、元さんが姉弟を入園させてしまったことで、時間になっても姉弟が戻らなかった。園内職員一斉の搜索が始まり、祈るような気持ちで元さんが連絡を待つという場面がある。

これは、

- ㊧道徳的価値についての理解が不十分又は誤解していることから生じる問題

であると考えることができる。

この問題から、法やきまりの意義について考えることができるような発問や問い返しができる。

はじめは、「二通の手紙」を読んでも「やっぱり規則を守ることは大切だ」くらいの感想しかもてなくて、どう発問をつくれればいいか分からなかったけれど、「どのようなことから問題が生じたのか」と考えながら読んだら、問題の原因がだんだん分かるようになり、そこから発問や問い返しを考えることができました。





● 評価の考え方について

道徳科での生徒の評価に当たっては、次のような視点を重視することが重要です。

- 学習活動において、生徒が一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させているかどうか
- 道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかどうか



「学習活動において、生徒が一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させている」とは、具体的には、どのような生徒の姿なのかな？

例えば、このような姿が考えられるかしら。

- ・道徳的価値に関わる問題に対する判断の根拠やそのときの心情を様々な視点から捉え考えようとしている
- ・自分と違う立場や感じ方、考え方を理解しようとしている
- ・複数の道徳的価値の対立が生じる場面において取り得る行動を多面的・多角的に考えようとしている



「道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めている」とは、具体的には、どのような生徒の姿なのかな？

例えば、このような姿が考えられるかしら。

- ・読み物教材の登場人物を自分に置き換えて考え、自分なりに具体的にイメージして理解しようとしている
- ・現在の自分を振り返り、自らの行動や考えを見直していることがうかがえる部分に着目している
- ・道徳的な問題に対して自己の取り得る行動を他者と議論する中で、道徳的価値の理解を更に深めている
- ・道徳的価値の実現することの難しさを自分のこととして捉え、考えようとしている



なるほど。学習活動に着目し、生徒が何をどのように考えているかを見取ればいいのですね。

このように生徒が考えを深められるようにするためにも、発問や問い返しがとても大切ですね。

そうですね。考えを深められるようにするためにも、やはり授業づくりが大切ですね。



発問づくりシートの記入方法

※P. 16～19 の 1 2 3 4 を参考にしながら発問づくりを
 してみましょう。

1 2

ここには、教材名、教材に関連する内容項目と「ねらい」（道徳的価値）を記入します。
 「ねらい」は、道徳的な判断力、心情、実践意欲、態度など、授業を通して育てたいことを簡潔に記入します。



教材名	
内容項目	
ねらい (道徳的価値)	
○中心発問と中心発問に対して予想される生徒の反応を、生徒の言葉で3パターン程度考える	
中心発問：	
①	生徒は様々な考えをもっています。3パターン程度の生徒の反応を想定しておくことで、発問の文言を吟味したり、生徒の反応からの問い返しを考えたりすることに役立つと考えられます。
②	
③	
○「自分との関わりで考える」発問や問い返しを考える	
発問：	
○「物事を広い視野から多面的・多角的に考える」発問や問い返しを考える	
発問：	
○「課題意識をもつ」、「人間としての生き方について考えを深める」発問や問い返しを考える	
発問：	

3

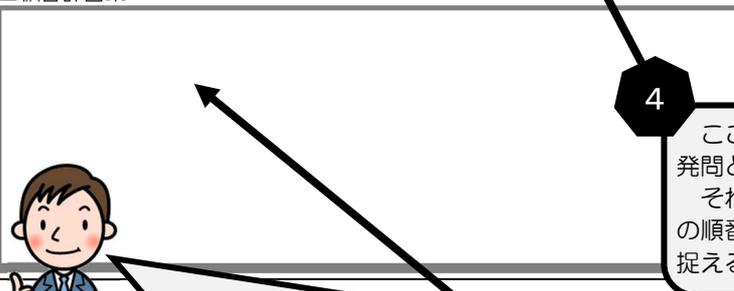
ここには、中心発問と中心発問に対して予想される生徒の反応を想定して書きます。
 中心発問は、多様な考えや意見が出るような発問となるようにすることや、道徳的価値を確認していけるような発問となるように工夫します。
 その際、中心発問に対し生徒がどのような反応をするか、思い浮かべながら生徒の言葉で書き表します。



発問を考える際には、P. 15「●『発問』と『発問の構成』の例」を参照してください。



■板書計画案



4

ここには、中心発問を生かす前後の発問とその意図を書きます。
 それぞれの発問が決まったら、発問の順番を考えながら授業全体の流れを捉えるようにします。



ここには、どのような板書にするか、その計画を書きます。
 板書は生徒にとって思考を深める重要な手掛かりとなります。それは、板書が教師の伝えたい内容を示したり、その順序や構造を示したり、内容の補足や補強をしたりするなど、多様な機能をもっているためです。
 思考の流れや順序を示すような順接的な板書をするだけでなく、意見や考えの違いや多様さを対比して表したり、中心部分を浮き立たせたりするなど、教師が意図を明確にして板書できるように工夫することが大切です。

第3章

四つの学習活動を工夫した授業の実践事例 ～発問づくりシートを活用して～

P. 22、23 で紹介した発問づくりシートを活用して、どのように授業づくりを行ったか紹介しています。また、実際に行った授業について、発問、問い返し等の工夫の実際や生徒の姿などを中心に紹介しています。

ページの見方

○一つの実践事例は、4 ページで構成されています。

- ・ 1 ページ目には、発問づくりシートを活用した「教材研究」の概要がまとめてあります。
- ・ 2 ページ目には、「授業プラン」として、中心発問の意図、授業展開の意図と展開案を示しています。

四つの学習活動の示し方は以下の通りです。

問題意識をもつ…

問題意識をもつ

自分との関わりで考える…

自分との関わり

物事を広い視野から多面的・多角的に考える…

多面的・多角的

人間としての生き方について考えを深める…

人間としての生き方

- ・ 展開案にある太字の「○基本発問 ◎中心発問 □問い返し」は、1 ページ目にある発問や問い返しです。
- ・ 3、4 ページ目には、授業の実際をまとめました。特に工夫したことについて、その詳細や授業での生徒の様子等を紹介しています。教師「T」と生徒「S」の対話のうち、下線のある「T」（教師の言葉）は、工夫改善した発問や問い返しです。また、（ ）にはその発問や問い返しがつもつ意味が示してあります。（P. 15 「●『発問』と『発問の構成』の例」参照）「本時の振り返りの様子」には、工夫改善した手立てなどにより、生徒がどのようにねらいに迫ったかについてまとめてあります。

教材名	第1学年 公平と不公平
主 題	公平とは何か
内容項目	C 一 (11) 公正, 公平, 社会正義



1 教材研究

まずは教材の吟味から始めよう！

ねらい

公平に接するとはどのようなことかについて考えることを通して、偏ったものの見方や考え方をしないことの大切さを理解し、差別や偏見のない社会を築こうとする態度を養う。

道徳的価値

正義と公正さを重んじる

誰に対しても公平に接する

ねらいに迫るための中心発問を考える

「あってよい違い」と「あってはならない違い」を考えるときに、大切なことは何でしょうか？

中心発問に対して予想される生徒の反応を生徒の言葉で3パターン考える

- ①自分だけの基準で判断しないこと。
- ②自分ではよいと思ってやっていたことが、相手にとっては嫌なことであったり迷惑なことであったりすることがあると思う。好き嫌いや損得では判断せず、どちらのことも考えるようにすること。
- ③多くの立場の人から意見を聞いて、それぞれの考え方や感じ方を理解すること。そしてお互いに納得がいくような、気持ちのよい関わり合いをすること。

「自分との関わりで考える」発問や問い返しを考える

発 問

三つの場面はそれぞれ「あってよい違い」と「あってはならない違い」の、どちらだと考えますか？

生徒に 考えさせ たいこと

自分だったらどのように判断するか、自分が判断する基準はどのようなことか、なぜそう考えたのか、など自分自身を見つめさせたり振り返らせたりすることで、公平や不公平について自分との関わりで考えられるようにする。

「物事を広い視野から多面的・多角的に考える」発問や問い返しを考える

問い返し

(「場面」についての最初の考えが、友達意見を聞いて変わった生徒に対しての問い返し) なぜ、考えが変わったのですか？

生徒に 考えさせ たいこと

自分の考えが変化したときに、根拠を問う問い返しをすることで、様々な立場や価値から事例について考えられるようにする。

2 授業プラン

(1) 中心発問の意図

生徒たちは生活の中で、つい不公平だと感じてしまうことがよくある。今回の授業ではどのような場面や状況において、自己中心的な考え方や偏った見方になってしまうのか、誰に対しても分け隔てなく接するために大切なことは何かなどについて考えることができるようにする。そこで、三つの場面について自分の意見と友達の意見を比較する。その後の中心発問では、『あってよい違い』と『あってはならない違い』を考えるとときに、大切なことは何でしょうか？と問うことにした。

(2) 授業展開の意図と展開案

		○基本発問	◎中心発問	□問い返し
導入	学習活動	1 不公平とは何であるかを考える。		
		○給食の配膳される量が人によって違ったら、公平でしょうか？不公平でしょうか？		
展開	学習活動	2 資料から道徳的価値について考える。		
		○三つの場面はそれぞれ「あってよい違い」と「あってはならない違い」の、どちらだと考えますか？		
展開	学習活動	場面1 年齢の違いでお年玉の額が違うことについて		
		場面2 障害があることによる優先入場について		
展開	学習活動	場面3 字が上手だという理由で、班長がCさん一人にまとめをお願いすることについて		
		友達の発表を聞いて、自分の考えが変わった生徒に対して □なぜ、考えが変わったのですか？		
展開	学習活動	◎「あってよい違い」と「あってはならない違い」を考えるとときに、大切なことは何でしょうか？		
		3 今日の学習を振り返り、自分の考えをまとめる。		
展開	学習活動	○今日考えたことを振り返ってみよう。		
		人間としての生き方		
終末	学習活動	4 教師の説話を聞く。		

導入

不公平と感じる事例を示して、公平と不公平の判断基準の曖昧さや偏りに気付かせることで、公平、不公平について考えることができるような導入にした。

展開

三つの場面について、自分だったらどのように判断するか考えることを通して公平や不公平について自分との関わりで考えられるようにした。

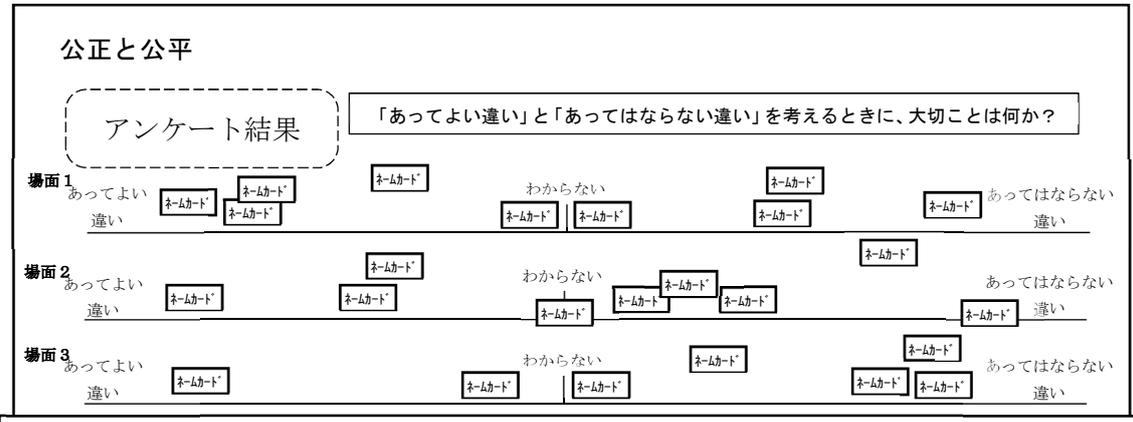
また、グループで考えや意見を共有できる時間を設定したり、生徒に考えが変わった根拠を問う問い返しをしたりすることで、公平や不公平について広い視野から多面的・多角的に考えられるようにした。

終末

公平か、不公平かで迷った教師の経験について話すことで、さらに考えを深めるようにした。

3 授業の実際 I (板書の工夫)

各場面について自分の考えを明確にしたり、友達との考えの違いを比較して考えを広げたり深めたりできるように、板書やネームカードの活用の仕方を工夫した。



板書計画案

T : 字が上手だという理由で、班長がCさん一人にまとめをお願いすること。このことについてどう考えますか？

…板書にネームカードを貼った後…

【あつてもよい違いの意見】

S 1 : もし、Cさん以外の人の文字が汚くて読めない場合は、Cさん一人をお願いしてもしかたがない。

【あつてはならない違いの意見】

S 2 : まとめるのはみんなで作ることなのに、字が上手だからという理由だけでCさんにまとめをお願いするのはおかしいのではないかな。

【分からないの意見】

S 3 : Cさんも引き受けてくれると言っていたり、みんなもCさんをお願いしたいと言っていたりしたらいいと思うけれど、いいか悪いかは分からない。

T : なるほどね。それぞれにいろいろな考えや意見がありました。改めて考えてみて、ネームカードを貼りかえてください。

…ネームカードを貼り替え後…

T : なぜ、考えが変わったのですか？(根拠を問う問い返し)

【分からない→あつてはならないに変更】

S 4 : みんなの話を聞いていると、Cさんが引き受けてくれるかどうか分からないから、一方的にお願いするのはだめだと思いました。

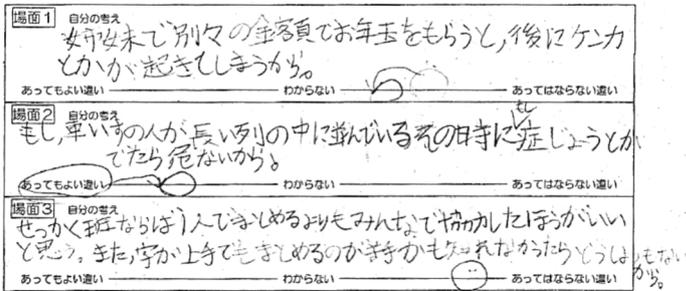


生徒の姿

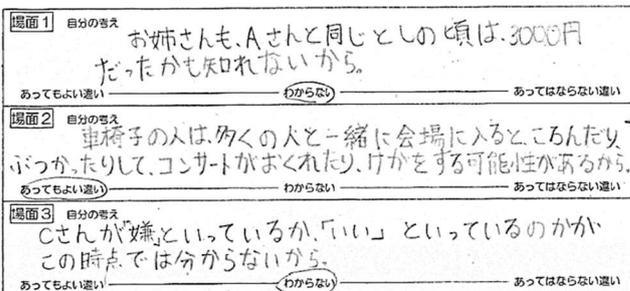
ネームカードを板書に貼った後に、それぞれの考えや意見を共有したことにより、様々な考えがあることに気付いた様子だった。その後、友達の見解や考えを聞いて自分の意見や考えが変わったらネームカードを貼りかえるように指示したところ、数名の生徒がネームカードを貼りかえた。その生徒に「なぜ、考えが変わったのですか？」と根拠を問う問い返しをすると、自己中心的な考えではなく、「Cさんが引き受けてくれるかどうか分からないから、一方的にお願いするのはだめだと思った」といった相手の立場に立って考えることや相手にお願いをする時に大切なことについて具体的に考えた意見が出された。

4 授業の実際Ⅱ（ワークシートの活用）

板書と同じ様式のワークシートを使用し、場面ごとに自分の考えを整理したり、判断したことを比較したりすることを通して、自分が判断するとき何を大切にしているか考えられるように工夫した。



自分の意見を黒板に貼って他者と比較する



三つの場面での自分の考えの変容を確認する

ワークシート



生徒の姿

それぞれの場面について、友達と様々な考えや意見を共有した時に、自分の考えが揺れ動いたり変化したりした軌跡をワークシートに記すことで、考えの変容を生徒自身で確認することができた。

5 本時の振り返りの様子

授業の導入では、深く考える様子もなく判断していたが、様々な場面を考える中で、自分と違った意見に出会ったり、同じ意見でも理由が違うことに気付いたりすることで、正しいと思っていた自分の判断に対して迷いを感じているのか、より深く考えている様子が伺えた。

授業の振り返りでは、「人によって判断する基準が違うことが分かった」、「まずは、相手の気持ちなどを考え、周りの人と話をしながら判断することも大切だと思った」、「公平か不公平かを考えるのは難しいなと思った。でも、その人の気持ちになって考えることが大切だと気付いた」などがあり、公正、公平について自分の考えを深めることができた。

教材名	第1学年 銀色のシャープペンシル
主 題	心の弱さを乗り越えるために
内容項目	D ー (22) よりよく生きる喜び



1 教材研究

まずは教材の吟味から始めよう！

ねらい

心の弱さと良心の間で葛藤する主人公に自分を重ね、弱さを乗り越えて人間としてよりよく生きていこうとする態度を育む。

道徳的価値

人間の自らの弱さや醜さを克服する強さがあることを理解する

ねらいに迫るための中心発問を考える

なぜ、今回は（卓也の家に向かって歩き出す）行動に移すことができたのでしょうか？

中心発問に対して予想される生徒の反応を生徒の言葉で3パターン考える

- ①これまでの自分を許せないから。
- ②これまで人のせいにしながら自分をごまかしてきたことが嫌になってしまったから。許してもらえないか分からないけれど、正直でありたいと思ったから。
- ③このまま黙っていることもできるけれど、自分が悪いのに逆に謝られて、自分のだめなところを思い知ったから。このままだと友達と対等に付き合えなくなってしまうだろうし、友達を裏切り続けることになってしまう。そのような生き方はしたくない、という強い気持ちから行動に移すことができたのだと思う。

「自分との関わりで考える」発問や問い返しを考える

発 問

なぜ、「ぼく」はこのような（シャープペンシルをとる）行動をとってしまったのか、「ぼく」の立場から考えましょう。

生徒に考えさせたいこと

主人公について投影的に考えさせることで、自分のこれまでの生活経験と関連させながら、心の弱さについて自分との関わりで考えられるようにする。

「物事を広い視野から多面的・多角的に考える」発問や問い返しを考える

問い返し

もし卓也から電話がなかったらどうしたと思いますか？

生徒に考えさせたいこと

心の弱さを乗り越えるときの心の状態を、条件を変えた問い返しを通して、多面的・多角的に考えさせるようにする。

「問題意識をもつ」「人間としての生き方について考えを深める」発問や問い返しを考える

- ・どのような時に自分の心の弱さを感じましたか？
- ・心の弱さを乗り越えるには、どのようなことが必要でしょうか？

2 授業プラン

(1) 中心発問の意図

心の弱さは、自分だけではなく誰もがもっている。その心の弱さを乗り越え、自分を奮い立たせることで目指す生き方に近付けるということに気付けるようにするために、合唱コンクールの練習についての言動と卓也の家へ向かって歩き出したときの行動の変化に注目させる。その上で、中心発問で「なぜ、今回は（卓也の家に向かって歩き出す）行動に移すことができたのでしょうか？」と問うことにした。

(2) 授業展開の意図と展開案

○基本発問 ◎中心発問 □問い返し

		学習活動
導入	事前	主人公の行動について、どのようなところが問題か考えながら教材を読むように指示する。また、心の弱さについてのアンケートも事前に行う。
	導入	1 心の弱さを感じた時の経験を想起する。 ○どのような時に自分の心の弱さを感じましたか？ 問題意識をもつ □なぜ、心の弱い部分が出てしまうのでしょうか？
展開	展	2 資料から道徳的価値について考える。 ○この話で「ぼく」の心の弱さを感じた場面はどこでしょうか？ ○なぜ、「ぼく」はこのような行動をとってしまったのか、「ぼく」の立場から考えましょう。 自分との関わり ◎なぜ、今回は行動に移すことができたのでしょうか？ □もし卓也から電話がなかったらどうしたと思いますか？ 多面的・多角的
	開	□自分の気持ちだけがすっきりすればよいのでしょうか？ □心の弱さを乗り越えられたのは、卓也のおかげということでしょうか？ □もし、このまま黙っていたら、「ぼく」はどのような人になっていくのでしょうか？
終末	開	3 人間としての生き方について考える。 ○心の弱さを乗り越えるには、どのようなことが必要でしょうか？ 人間としての生き方
	終末	4 本時の振り返りを道徳ノートに書く。

導入

「人間の心の弱さ」について、自分の経験を振り返る発問をすることにより、本時で学ぶ道徳的価値について問題意識をもてるようにした。

展開

主人公について投影的に考えさせることで、自分のこれまでの生活経験と関連させ、自分との関わりの中で考えさせた。

中心発問について考えを深めるために、条件を変えた問い返しにより、多面的・多角的に考えさせることで、本時のねらいに迫ることができるようにした。

終末

本時の振り返りで道徳ノートに書かせる時間を十分に取り、自分との関わりで考え、自己理解を深められるようにした。

3 授業の実際 I (アンケートの活用)

事前に教材を読み、書かせておいたアンケートを活用することで、教材の内容を想起させ、主人公の行った行動について考える時間を十分確保できるように工夫した。

■アンケート

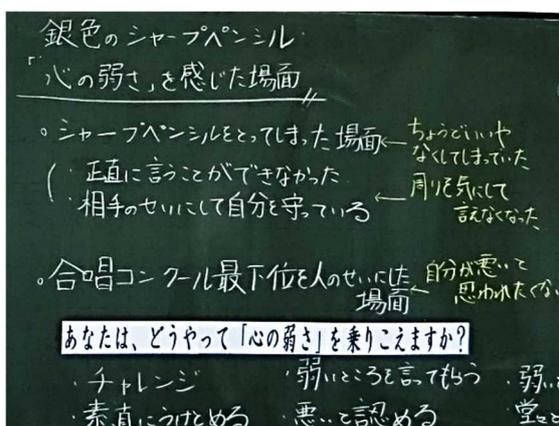
1 自分の「心の弱さ」を感じるのは、
どんなときですか？

()

2 『銀色のシャープペンシル』を
読んで、『ぼく』の心の弱さを感じ
たのはどの場面でしたか？

()

アンケート用紙



板書の様子

1 自分の「心の弱さ」を感じるのは、
どんなときですか？

- みんなの意見に流される
- 正直に嫌だと言えない
- 面倒だと思ってやめてしまう
- 決めたことを守れない
- 嫌なことから逃げてしまう
- すぐに落ち込んでしまう
- すぐに腹を立ててしまう
- すぐに否定してしまう
- すぐにあきらめてしまう
- すぐにキれる
- 勇気をもって発信できない
- 嘘をついてしまう
- 人のせいにする

2 『銀色のシャープペンシル』を
読んで、『ぼく』の心の弱さを感じ
たのはどの場面でしたか？

- シャープペンシルをとってしまっ
た場面
- 合唱コンクールで最下位になっ
たことを人のせいにした場面

アンケート結果



生徒の姿

アンケート 1 を集約した結果を共有したことで、「心の弱さ」は誰もがもっていることや、いろいろな心の弱さがあることを理解できた様子であった。

また、アンケート 2 の質問と同じ発問をしたことで、事前に考えていた自分の意見を基に発表し、友達と活発に意見交換することができた。自分の考えた「心の弱さ」と主人公の「心の弱さ」をつなげて考えさせたことにより、次の発問で主人公の立場から考える際にも、自分との関わりで考えることができていた。

4 授業の実際Ⅱ（中心発問から問い返しの工夫）

合唱コンクールのときの言動と卓也の家へ向かって歩き出したときの行動の変化に注目させ、そこでの気持ちの変容を多面的・多角的に考えさせられるように、条件を変えた問い返しを意図的に行った。

T : 今回はどうして謝りに行こうと行動に移すことができたのか？気持ちがどのように変わったのでしょうか？

S1 : 卓也が電話で謝ってきたから、本当のことを言おうと思った。

T : なるほど。じゃあ、仮に電話が来なかったとしたら、どうしていたと思う？謝りに行ったのかな？（条件を変えた問い返し）

S1 : 行ってないと思います。

T : 電話が来なかったら謝りに行かなかったと思う人？（挙手）

T : どうしてですか？（根拠を問う問い返し）

S2 : やっぱり、謝る勇気が出ない。自分が悪いことをしたのを認めたくないから。

T : 謝りに行ったと思う人？（挙手）

T : どうして電話が来なくても謝りに行ったと思うの？（根拠を問う問い返し）

S3 : ロッカーに返した時点で、自分が今回は悪いと自分でも思っているから。電話が来なくても、悪いのは分かっているから謝りに行くと思う。

T : 反省しているから謝りに行ったという人もいるし、電話がきっかけだという人もいるね。他の考えは？

S4 : 自分が悪いことをしているのをごまかさないようにしたいから、謝りに行ったと思います。

S5 : 正当化していた自分のずるさに気付いたから、謝りに行ったと思います。



生徒の姿

中心発問の反応から、「仮に電話が来なかったとしたら、どうしていたと思う？謝りに行ったのかな？」と条件を変えた問い返しをしてその理由を尋ねたところ、心の弱さを乗り越えられない難しさに気付くことができた。

また、仮に電話が来なかったとしても謝りに行ったと考える生徒にも理由を問い返したところ、「自分が悪いことを認めた上で謝りたい」、「自分をごまかさないようにしたい」など、心の弱さを乗り越えようとする発言が多く見られた。中心発問に対する生徒の反応を基に条件を変えた問い返しや、根拠を問う問い返しをしたことで、様々な考えや意見を共有し、ねらいに向かって考えを深めていくことができた場面であった。

5 本時の振り返りの様子

振り返りでは、「物語を通して改めて自分の弱さにも気付くことができた。これからはたくさん失敗することがあると思うけれど、常に正直でいられるようにしたい」などがあり、どのように生活をしていきたいか、具体的に考えながら、よりよく生きる喜びについて考えを深めることができた。

教材名	第2学年 ゴール
主 題	情報モラルと友情
内容項目	B 一（8） 友情，信頼



1 教材研究

まずは教材の吟味から始めよう！

ねらい

感情的なすれ違いを乗り越えながら真の友情を築こうとする主人公たちの姿を通して、共に励まし合い、高め合って友情を深めようとする心情を育てる。

道徳的価値

互いに励まし合い，高め合う

ねらいに迫るための中心発問を考える

あなたがチームの一員だったら、どのような行動をしますか？

中心発問に対して予想される生徒の反応を生徒の言葉で3パターン考える

- ①早退したり力に、「どうしたの？」と声をかける。
- ②試合に負けたら気分はよくないし、ミスをした人のせいになりたい気持ちも分かるが、SNSで人を責めるのは、よくないと話をする。
- ③試合後はこれまで以上にコミュニケーションを取って、どんなことでも話せるような雰囲気を作れるようにする。何か雰囲気がおかしいと思ったら声を掛けたり、ミーティングをしたりするようにする。

「自分との関わりで考える」発問や問い返しを考える

発 問

この話の一番の問題となる場面はどこでしょうか？

生徒に 考えさせ たいこと

自分の経験や普段の学校での友達との生活を基に、問題点は何かについて考えさせることで、自分との関わりで考えることができるようにする。

「物事を広い視野から多面的・多角的に考える」発問や問い返しを考える

問い返し

(中心発問についての問い返し)
なぜ、そのようにできなかったのでしょうか？

生徒に 考えさせ たいこと

「あなたがチームの一員だったら」と投影的に問うことで、これまでの自分を振り返りながら考えられるようにし、本当にできるかと問い返すことで、人間の弱さに気づき、よりよい対応について考えることができるようにする。

「問題意識をもつ」「人間としての生き方について考えを深める」発問や問い返しを考える

・友達との関わり合いについてどのようなことを考えましたか？

2 授業プラン

(1) 中心発問の意図

中学生の時期は、心から信頼できる友達を求めて、友達への期待も強まると同時に、友達との関係に時に悩み、友達であるからこそ意見がぶつかることもある。友情は、互いの特徴や個性を尊重し、互いに支え、競い合い、高め合うことによって深まる。問題と思われる場面において自分との関わりで考えられるように、中心発問では、「あなたがチームの一員だったら、どのような行動をしますか？」と問うことにした。

(2) 授業展開の意図と展開案

		○基本発問	◎中心発問	□問い返し
		学習活動		
事 前	導	登場人物の友達との関わり方について、どのよう なところが問題かを考えながら教材を読むよう に指示する。また、友達に関するアンケートも事 前に行う。		
	入	1 教材を読んで、教材のどの場面のどのような 出来事が問題なのか話し合う。 ○この教材を読んで問題だと思った場面はありま すか？ 問題意識をもつ		
展 開	展	2 資料から道徳的価値について考える。 ○5人の中の誰か一人だけが悪かったのでしょ うか？ □SNSをやること自体も悪いのでしょうか？ ○この話の一番の問題となる場面はどこでしょ うか？ 自分との関わり		
	開	◎あなたがチームの一員だったら、どのような行 動をしますか？ □なぜ、そのようにできなかったのでしょうか？ 多面的・多角的 3 本時の学習について、何をどのように考えた か振り返る。 ○友達との関わり合いについてどのようなことを 考えましたか？ 人間としての生き方		
終 末		4 教師の説話を聞く。		

導入

教材を読んで問題と感じた場面や友達についてのアンケート結果を共有することで本時のねらいとする「友情」について、問題意識をもてるようにした。

展開

問題となる場面において、学校生活での友達との関わりを基に、どの場面が問題か自分との関わりで考えられるようにした。それを踏まえ、あなたがチームの一員だったらどのような行動をするか投影的に発問をすることで、ねらいに迫れるようにした。

また、中心発問から「なぜできなかったのか」、「よりよくするためにどうすればよいのか」、「本当にできるのか」など問い返すことで、様々な考えがあることや人間の弱さに気付かせながら、多面的・多角的に考えを深められるようにした。

終末

友達との関わり合いに関する教師の経験について話すことで、さらに考えを深められるようにした。

3 授業の実際 I (問い返しの工夫)

事前に教材を自分で読ませ、問題と思われるところに線を引かせておくようにした。導入の場面では、教材のどの場面を問題と感じたか、グループで話し合い、クラス全体で共有するとともに、問い返しを行うことで登場人物の言動の何が問題なのか、考えられるようにした。

…グループで共有した後…

T : この話の一番の問題となる場面はどこでしょうか？

S 1 : 「この前の試合は、リカのせいで負けたようなものなのに。」と言ったところ。

T : リカだけが悪いのでしょうか？

S 2 : そうではないと思う…。

S 3 : 樹里はリカの味方になっていたので悪くないと思う。

S 4 : 悪くないのにリカの味方になったから、一緒に仲間はずれにされたのだと思う。

S 5 : 二人のせいにしようとしたから、SNS で三人用グループを作ったと思う。

T : SNS の何が問題だったのでしょうか？

S 6 : 三人用のグループを作ったこと。

S 7 : 三人用のグループを作れば、仲間外れみたいにして、陰口を言っても気付かれないし、いいと思ったのではないかな。

T : もし、SNS が無ければ問題にならなかったのでしょうか？
(条件を変えた問い返し)

S 8 : SNS が無くても、陰でいろいろ言うと思う。

T : SNS をやること自体も悪いのでしょうか？
(批判的に問う問い返し)

S 9 : SNS は便利だと思うけど、使い方が悪いんだと思う。



生徒の姿

教材の中の何が問題であったと感じたか、グループで共有する場面では、登場人物の様々な言動が挙げられ、きっかけはあるけれども誰か一人の言動が原因ではないことを確認していた。

その後、「この話の一番の問題となる場面はどこでしょうか?」、「リカだけが悪いのでしょうか?」と問う中で SNS の使い方についての考えが出された。「もし、SNS が無ければ問題にならなかったのでしょうか?」と条件を変えた問い返しや「SNS をやること自体も悪いのでしょうか?」と批判的に問う問い返しを行ったことで、SNS の使い方に問題があるのではないかという情報モラルに関わる意見が出された。SNS や友達との関わりは、生徒にとって身近な問題であるため、自分事として問題意識をもって考えている様子だった。



グループでの話し合い

4 授業の実際Ⅱ（中心発問から問い返しの工夫）

中心発問で「あなたがチームの一員だったら、どのような行動をしますか？」と考えさせたり、「なぜ、そのようにできなかったか」と問い返したりすることで、よりよい行動をしようという思いはあるが、実際に行動に移すことの困難さや、困難である理由について考えられるようにした。

T : あなたがチームの一員だったら、どのような行動をしますか？（投影的な発問）

S 1 : 練習を3対2に分けてしまったのが問題だと思うから、一緒に練習する。

S 2 : SNSで別のグループを作って悪口を載せるのは、だめなのではないかな。そういうことはしてはいけない。

S 3 : SNSで言ったりしないで、直接話をすればいいのに。

T : もし、あなたがその状況だったら、直接話をしたり伝えたりすることはできますか？（投影的な問い返し）

S 4 : そういうことは許せないから、はっきり言った方がいいんだよ。自分は、はっきり言う。

S 5 : きちんと伝える。

T : 直接言ったら、チームが崩壊しちゃうのではない？（条件を変えた問い返し）

S : ……。

S 6 : 私はできないと思う。

T : なぜできないと考えたの？（根拠を問う問い返し）

S 6 : 言いづらい。

S 7 : 言ったら自分が仲間はずれにされちゃうかもしれないから。

S 8 : キャプテンに悪いなと遠慮してしまうから。



生徒の姿

「もし、あなたがその状況だったら、直接話をしたり伝えたりすることはできますか？」と投影的な問い返しをすると、「そういうことは許せないから、はっきり言った方がいいんだよ。自分ははっきり言う」、「きちんと伝える」という発言が多かったが、さらに教師が「直接言ったら、チームが崩壊しちゃうのではないの？」という条件を変えた問い返しをしたところ、「私はできない」などの発言があった。

「伝えることが正しいこと」と理解はしているが、自分事として考えた時には、不安や心配なこともあると気づき、伝えることの難しさを感じる事ができる場面であった。

5 本時の振り返りの様子

導入では、友情について「仲がよい」、「助け合う」、「本音が言える」のが友情と思っていたが、振り返りでは、「友達との関わり方について具体的にどうすればいいのか難しかった」、「すれ違うこともあるが、互いに相手の立場を考えることが大切」など、友情の在り方について考えを深めている様子が見られた。

教材名	第2学年 コトコの涙
主 題	わかり合うこと
内容項目	B 一（9） 相互理解、寛容



1 教材研究

まずは教材の吟味から始めよう！

ねらい

コトコと笹岡さんとの関わりを通して、人には様々な考え方があることを理解し、自分の考えを伝えつつ、分かり合い、他に学ぼうとする謙虚な態度を育てる。

道徳的価値

それぞれの個性や立場を尊重する
いろいろなものの見方や考え方があることを理解する

ねらいに迫るための中心発問を考える

コトコは、今後、笹岡さんにどのように接すると思いますか？

中心発問に対して予想される生徒の反応を生徒の言葉で3パターン考える

- ① 笹岡さんをそっと見守りながら、笹岡さんの気持ちを考えて接すると思う。
- ② 会う度にあいさつをしたり声をかけたりしながら、コミュニケーションをとるように心掛けて、話ができるようにすると思う。
- ③ 笹岡さんがこれまでどのような生き方をしてきたかいろいろな人から聞いて、笹岡さんの気持ちを理解できるようにすると思う。そして、笹岡さんの気持ちに少しずつ寄り添いながら接していくのではないかなと思う。

「自分との関わりで考える」発問や問い返しを考える

問い返し

もし、教室で一人にして欲しいと思っている人がいて、その人が一人ぼっちでいたら、みんなはどうしますか？そのままにしておきますか？

**生徒に
考えさせ
たいこと**

笹岡さんの対応について自分に投影して考えることにより、自分との関わりで笹岡さんの思いを考えられるようにする。

「物事を広い視野から多面的・多角的に考える」発問や問い返しを考える

問い返し

（中心発問についての問い返し）
なぜ、そのように接すると思いましたか？
話しかけるだけが関わり方なのでしょうか？

**生徒に
考えさせ
たいこと**

コトコがどのように接していくかについて、笹岡さんの立場に思いを馳せ、根拠を考えながらグループで意見を交流することを通して、人との関わり方について多面的・多角的に捉えられるようにする。

「問題意識をもつ」「人間としての生き方について考えを深める」発問や問い返しを考える

・いろいろな立場の人と分かり合うようになるために大切なことは何だと思いますか？

2 授業プラン

(1) 中心発問の意図

自分の考えや意見を伝えることは、人間関係を築く上で欠かすことができないことである。生徒が様々な人と関わる際には、自分の考えや意見を伝えることやお互いの個性や立場を尊重することが大切であることに気付かせたい。笹岡さんの立場に思いを馳せながら、どのような人間関係を築いたらよいか考えることで、人には様々な考え方があることに気付くことができるようにしたい。そこで、中心発問では、「コトコは、今後、笹岡さんにどのように接すると思いますか?」と問うことにした。

(2) 授業展開の意図と展開案

		○基本発問	◎中心発問	□問い返し
<div data-bbox="242 712 304 748" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">導入</div> <p>ねらいに迫れるように、登場人物の関係性とあらすじについて整理することで、コトコと笹岡さんの関わりについて焦点化できるようにした。</p> <div data-bbox="242 1064 304 1099" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">展開</div> <p>中心発問について考えを深めるために、まず笹岡さんの立場を考えさせるようにした。その際、自分との関わりで考えられるように、問い返しを行うことにした。その上で、笹岡さんへの接し方について考え、その根拠を問い返し、本時のねらいに迫れるようにした。</p> <p>また、中心発問について一人一人が発言できるように、三人組のグループで話し合うことにした。</p> <div data-bbox="242 1765 304 1800" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">終末</div> <p>分かり合うことの難しさを感じた教師の経験を話すことで、さらに考えを深められるようにした。</p>		学習活動		
	事前	登場人物の友達との関わり方や笹岡さんとの関わりについて、どのようなところが問題か考えながら教材を読むように指示する。		
	導入	1 事前に教材を読んだ時に、問題だと感じたことについて質問する。 <input type="checkbox"/> コトコもマサシも悪いことをしたのでしょうか? <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">問題意識をもつ</div>		
	展開	2 教師による『コトコの涙』の範読を聞き、主な登場人物や出来事を整理する。 3 資料から道徳的価値について考える。 <input type="checkbox"/> コトコの対応についてどう思いますか? <input type="checkbox"/> 笹岡さんは、どのような思いで生活をしていると思いますか? <input type="checkbox"/> もし、教室で一人にして欲しいと思っている人がいて、その人が一人ぼっちでいたら、みんなはどうしますか?そのままにしておきますか? <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">自分との関わり</div> ◎コトコは、今後、笹岡さんにどのように接すると思いますか? <input type="checkbox"/> なぜ、そのように接すると思いましたか? <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">多面的・多角的</div>		
	終末	4 「分かり合うこと」について自分の考えを深める。 <input type="checkbox"/> いろいろな立場の人と分かり合うようになるために大切なことは何だと思いますか? <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">人間としての生き方</div> 5 教師の説話を聞く。		

3 授業の実際 I (問い返しの工夫)

笹岡さんの置かれている状況や心情、これまでの生き方を考えることを通して、よりよい関わり合い方や分かり合うためにどうすればいいのかについて考えを深められるようにした。その際「学級に一人での友達がいたらどうするか」という条件を変えた問い返しをすることで、自分との関わりで考えることができるようにした。



生徒の姿

T : 笹岡さんは、どのような思いで生活をしているのだろうか？

S 1 : 外を見ているっていうことは、何かを思い出しているような感じで、ぼうっとしているんじゃないかな。

S 2 : 誘いを断りたくて、知らないふりをしたのではないと思う。昔は大工の棟梁だったから、その時のプライドとか、いろいろな気持ちがあるのではないかな。「水槽を見ましょう」って言われてもね。見たければ見る。

S 3 : なるほどね。もしかしたら老人ホームに好きで入っているのではないのかもしれない。老人ホームに入らされて悔しかったのかな。

S 2 : そうだね、悔しいかもしれないね。

S 3 : 急におじいさん扱いされて、そしたら今度は、子ども扱いされて。

S 2 : 老人ホームって、やることなく、一日の時間がとても長く感じるのではないかな。いつまで続くんだろうって。前みたいに仕事をしたいとか、いろいろ思い出しているのではないかな。

S 1 : 一人にして欲しかったんだよ。

T : なるほど。もし、教室で一人にして欲しいと思っている人がいて、その人が一人ぼっちでいたらみんなはどうするの？そのままにしておく？(条件を変えた問い返し)

S 1 : いいや。

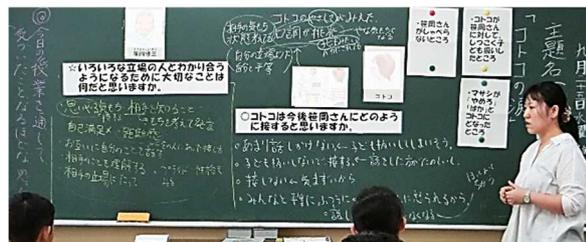
S 2 : 仲間はずれみたいになっちゃうから、話しかけたりする。

S 3 : みんなで困んじゃう。

S 4 : そっとしておいて欲しい時もあるよ。

初めは、「笹岡さんは話をしない頑固そうなおじいさん」というイメージでしかなかったが、改めて笹岡さんについて考えることができるように発問をすると、笹岡さんの態度の理由について、様々な考えや意見が出された。そこで、笹岡さんの置かれている立場や気持ちを具体的に考え、「そっとしておいて欲しいんだよ。一人にして欲しかったんだよ」などと、その時の笹岡さんの心情に寄り添った発言をしていた。

その考えを生かして「もし、教室で一人にして欲しいと思っている人がいて、その人が一人ぼっちでいたらみんなはどうするの？そのままにしておく？」と、生徒の身近な場面での出来事のように条件を変えて問い返しをしたところ、まずは「話しかける」という考えが多く出された。相互理解では、まずは相手の立場を理解しながら、自分の思いを伝えることが大切であるということに改めて気付くことができた場面であった。



板書の様子

4 授業の実際Ⅱ（中心発問から問い返しの工夫）

分かり合うことの難しさや、分かり合うためにはどうすればいいのかについて、三人組のグループを設定し、グループでの話し合い活動を生かして考えることができるようにした。

T : コトコは、今後、笹岡さんにどのように接すると思いますか？

…グループでの話し合い…

S 1 : 優しさはあるけれど、大人に対しての優しさで接するのかな。

S 2 : 大人に対しての優しさって？

S 1 : 普通よりもちょっと丁寧な感じで、優しさが増している感じ…。

S 2 : 気持ち的に。大人として扱うみたいな？子ども扱いではなくて、これまで長い間生きてきた立派な大人として扱うみたいな感じ。

T : なぜ、そのように接すると思いましたが？（根拠を問う問い返し）

S 1 : その人のこれまでの人生を大切にするというか。尊重するというか。

S 3 : そのためには、普段は話しかけなくてもこういうときだけ話しかけてもダメだと思う。

S 2 : うんうん。

S 1 : なるほど。私もコミュニケーション能力ないんだよね。難しいよね。

S 3 : 分かる～。

T : いろいろな立場の人と分かり合うようになるために大切なことは何だと思えますか？

…グループでの話し合い…

S 1 : 思いやりの気持ちは大切だけれども自己満足に走らない。

S 2 : あ、そうだね。

S 1 : だってさ、自己満足に走ったら終わりだよ。

S 2 : そうだよな。

S 3 : 私はあまり話さなくてもちょっと話をしてみて、無視されたら様子を見て、みたいな…。距離を置く…。

S 2 : 距離って大切だよな。

S 1 : 距離感っていうのかな。

S 3 : そうそう。

S 2 : 距離感ってみんな一緒かな？

S 1 : 違うかな？違うよね？

S 3 : 違うね。ぐいぐい来られてもね…。

S 2 : 気さくに明るく話しかけたり、平等な立場として認めて話したり…。

S 1 : 話しやすい空間をつくるとかさ…。

S 2 : そういうのも大切だよな。



生徒の姿

グループで話し合う時間を十分に確保することで、一人一人が考えたことについて、活発な意見交換をすることができた。その中で、感じ方に様々な違いがあることが分かり、関わることの難しさや、お互いに共感することの大切さについて考えていた。

さらに、自分だったらこうするなど、自分との関わりや様々な視点から考えながら、具体的にどのように接することがよいか意見交換する姿も見られた。

5 本時の振り返りの様子

グループでの話し合いの際に使用したワークシートには、互いに分かり合うために大切なこととして、「お互いの立場に立って考える」、「お互いを理解する」、「コミュニケーションをとる」などと書かれていた。

また、授業の振り返りでは、「距離感や価値観は人によって違うから、相手を知って尊重することが大切」、「相手の感情を大切にしながら接することが大切」、「優しそうに接していても、相手にとっては見下しているように感じることもあるという意見に納得した」などと書かれており、相互理解について考えが深まったことが捉えられた。

教材名	第3学年 背筋をのばして
主 題	家族の支えがあるから
内容項目	C ー (14) 家族愛, 家庭生活の充実



1 教材研究

まずは教材の吟味から始めよう！

ねらい

敬愛する両親の思いを受け止めつつも自分の夢に向かう主人公の姿を通して、父母を敬愛し、家族の一員としての自覚をもち、よりよい家庭生活を築こうとする心情を育てる。

道徳的価値

父母を敬愛する

家族の一員としての自覚をもつ

ねらいに迫るための中心発問を吟味する

千里は今後どのような思いで生きていくと思いますか？

中心発問に対して予想される生徒の反応を生徒の言葉で3パターン考える

- ①デザイナーの夢を叶えると思う。
- ②両親の期待に応えられるように努力して自分の夢を叶えると思う。父のように真面目にコツコツと仕事をしていくと思う。
- ③たとえ自分の夢が叶わなかったとしても、努力をしながら進んでいくと思う。そうすることが父母への恩返しにもなると思うし、家族の一員として父母を支えることにもつながるのではないかなと思う。

「自分との関わりで考える」発問や問い返しを考える

発 問

千里が「デザイナーになる夢」を家族に言い出せなかったのはなぜでしょうか？

生徒に
考えさせ
たいこと

家族だから遠慮して気を遣って言えないことや、家族だから思いをはっきり言って傷つけてしまったことなど、生徒自身と保護者との関係を想起させながら、千里の思いに寄り添って考えられるようにする。

「物事を広い視野から多面的・多角的に考える」発問や問い返しを考える

発 問

「好きにきなさい」という発言をしたとき父親はどのような気持ちだったでしょうか？

生徒に
考えさせ
たいこと

子どもが巣立っていくのを寂しく思う反面、子供の自立を嬉しいと思う気持ちがあるなど、父親の立場に立って考えることにより、親の子どもに対する気持ちを多面的・多角的に捉えられるようにする。

「問題意識をもつ」「人間としての生き方について考えを深める」発問や問い返しを考える

・家族の一員として自分ができることは何でしょうか？

2 授業プラン

(1) 中心発問の意図

中学生の時期は自我意識が強まる時でもある。家族関係を子どもの視点だけでなく、娘を送り出す父親の立場になって考えることで、深い愛情をもって育てられていることに気付かせたい。父母を敬愛する気持ちを大切にしながら、家族の一員として、自分はどのような役割を果たせばよいかについて考えさせるために、中心発問では、「千里は今後どのような思いで生きていくと思いますか?」と問うことにした。

(2) 授業展開の意図と展開

	○基本発問	◎中心発問	□問い返し
	学習活動		
事前	家族との関わり方や家族の支えを感じていることはどんなことかを考えながら、教材を読むように指示する。		
導入	1 自分と家族の関わりについて考える。 ○3年生になった今、家族の支えを感じることはありますか? □あなたが家族を支えるために、今、何かしていることはありますか? 問題意識をもつ		
展開	2 資料から道徳的価値について考える。 ○千里が「デザイナーになる夢」を家族に言い出せなかったのはなぜでしょうか? 自分との関わり □あなただったら言えますか? ○「好きにしてください」という発言をしたとき父親はどのような気持ちだったでしょうか? 多面的・多角的 □どんな気持ちで父親はジャケットにアイロンをかけているのでしょうか? ◎千里は今後どのような思いで生きていくと思いますか? □もし、夢を実現できなかつたら親の期待に応えたことにならないのでしょうか? ○家族の一員として自分ができることは何でしょうか? 人間としての生き方		
終末	3 本時の学習について、何をどのように考えたかについて振り返る。 ○家族との関わり合いについて、どのようなことを考えましたか?		
終末	4 今日の授業で考えたことを発表する。		

導入
「家族を支えるために、今、何かしていることはありますか」と聞くことで、家族に支えられているだけでなく、家族の一員としての自覚について問題意識をもたせた。

展開
千里の心情を考えさせるだけではなく、親の立場から考えることも大切であることから、父親の言動の背景を考えさせることを通して、家族の関係について多面的・多角的に捉えられるようにした。その際、父親の心情の変化と千里の心情を対比した板書構成にすることで、千里の今後の生き方についても考えられるようにした。

終末
発表を通して友達の意見を聞くことで、家族の一員としての自分の在り方について考えが深まるようにした。

3 授業の実際 I (問い返しの工夫)

生徒が共感しやすい千里の心情について考えさせた後、「あなただったら言えますか？」と投影的に問い返すなど、自分との関わりで考えを深められるように問い返しの工夫をした。

T : 千里が「デザイナーになる夢」を家族に言い出せなかったのはなぜでしょうか？

S 1 : 親の期待がわかっていたから言い出せなかった。

S 2 : 自分から言うと、父を傷つけてしまうから。

S 3 : 小さい頃に父の仕事を「将来の夢」と言っていたから。

T : あなただったら言えますか？
(投影的な問い返し)

S 4 : …言えないかな。

T : 何で言えないのでしょうか？
(根拠を問う問い返し)

S 4 : 親の期待を裏切るわけにはいかない。

S 5 : 親を悲しませたくないから。

S 6 : 自分に自信がないから。



生徒の姿

中学三年生で進路選択について考え始めた時期であり、千里に共感しやすいのではないかと考え、「千里が『デザイナーになる夢』を家族に言い出せなかったのはなぜでしょうか？」と投げかけた。すると、「親の期待が分かっていたから言い出せなかった」、「自分から言うと、父を傷つけてしまうから」など親を気遣うような発言があった。

続いて「あなただったら言えますか？」と投影的な問い返しや、「何で言えないのでしょうか？」と根拠を問う問い返しを意図的に行うと、自分の家庭を想起したり、千里の立場を自分事として考えたりする姿が見られた。



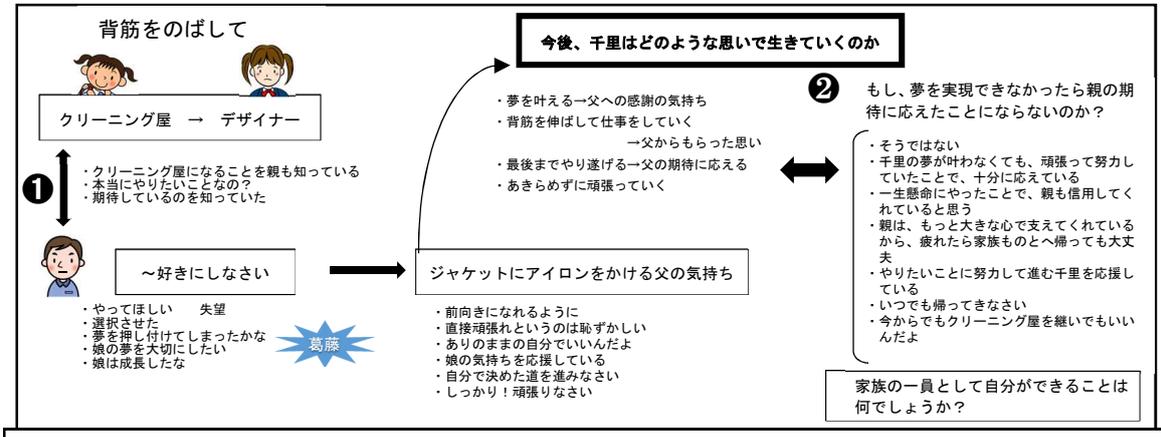
黒板に千里の幼少期の挿絵を掲示する



三人組のグループでの話し合い

4 授業の実際Ⅱ（板書の構成と問い返しの工夫）

千里と父の気持ちの変容と、千里と父の気持ちのすれ違いを時系列で捉え、比較しながら中心発問を考えることができるように、板書の構成を工夫した。また、「もし、夢が叶わなかったら…」と問い返すことで、考えを深められるようにした。



板書の様子

- ①導入時には、左から右に向かって順に、時間の経過と共に変化した千里の将来の夢や、父親の気持ちの変化を板書に示した。また、千里と父親の思いや考えを板書の上下に分けて書くことで、すれ違いがあることを対比して捉えられるようにした。
- ②家族の一員としての今後の千里の生き方について考える際に、「千里が夢を叶えることが父親の気持ちに応えることだ」といった考えが多く挙げられた。そこで、「もし、夢を実現できなかつたら親の期待に応えたことにはならないのか？」と問い返しをすることで、「たとえ夢が叶わなくても、頑張ってる努力したことは、十分期待に応えたことなのでは」など、家族の一員としての在り方について考えることに繋げられるようにした。

「親の後を継いで寿司屋になるか迷っているが、自分の好きな料理を勉強することで、将来、親に恩返しをしたい。」など、自分の家族を想起しながら、家族の一員としての今後の自分の在り方について考えている姿が見られた。

生徒の姿



5 本時の振り返りの様子

授業の導入で、「あなたが家族を支えるために、今、何かしていることはありますか？」について考えたときには、具体的な意見は出ず、家族からは支えられているが家族を支えているという意識が薄い感じであった。

授業の振り返りでは、教材の内容を自分事と捉えた上で、具体的に自分の将来のことを考えていた。「親は頑張っている自分を信用しているから大丈夫」、「親は、もっと大きな心で支えてくれていると思うから、疲れたら家族の元へ帰ってもいい」など、夢を叶えることだけが家族の一員としてできることではなく、温かい信頼関係や愛情によって互いが深い絆で繋がっていることが大切だということに気付くことができた。

教材名	第3学年 好きな仕事か安定かなやんでいる
主 題	将来の自分を見つめて
内容項目	C — (13) 勤労



1 教材研究

まずは教材の吟味から始めよう！

ねらい

職業選択に関する様々な立場からの意見について考え、勤労の尊さや意義を理解するとともに、将来の生き方について考えを深め、充実した生き方を追求し実現しようとする心情を育てる。

道徳的価値

勤労の尊さや意義を理解する 将来の生き方について考えを深める

ねらいに迫るための中心発問を吟味する

将来、職業を選択するときに、大切なことはどのようなことでしょうか？

中心発問に対して予想される生徒の反応を生徒の言葉で3パターン考える

- ①自分のやりたいこと、給料やお金のことを大切にしたいと思う。
- ②職業を選択するときに大切なことは、社会の中で自分の個性を生かせるような職業に就くことだと思う。仕事は社会になくてはならないものであり、人々の生活に必要な不可欠なものだと気付いた。
- ③どんな仕事でも、社会のため人のためになっているのであれば、自分ができることや得意なことなど、自分の個性を生かせる仕事をしたいと思う。自分がやりたいことやお金のことなども大切だが、働くことのよさを大切にしながら考えたほうがよいと思う。

「自分との関わりで考える」発問や問い返しを考える

発 問

働く上で大切なことを知っていれば、仕事を選択するときは悩まないで決めることができるでしょうか？

生徒に 考えさせ たいこと

CM 動画を見て働く上で大切なことを考え、自分の幸福を追求する面や社会を支える面などの職業選択の価値について、自分との関わりで考えさせる。

「物事を広い視野から多面的・多角的に考える」発問や問い返しを考える

発 問

A、B、C、Dさんの意見の中で、自分の考えに近いのは誰の意見ですか。また、それはどのようなところでしょうか？

生徒に 考えさせ たいこと

「A 心が望む方向へ」、「B 現実的な生き方」、「C やり直しができる」、「D 理想と現実でなやんでいる」というそれぞれの立場を参考にして、今の自分の考えに近い意見はどれかを考えさせる。

「問題意識をもつ」「人間としての生き方について考えを深める」発問や問い返しを考える

- ・自分が大切にしたいことを三つ選び、優先順位をつけましょう。その理由や、その条件に合う職業も考えてみましょう。

2 授業プラン

(1) 中心発問の意図

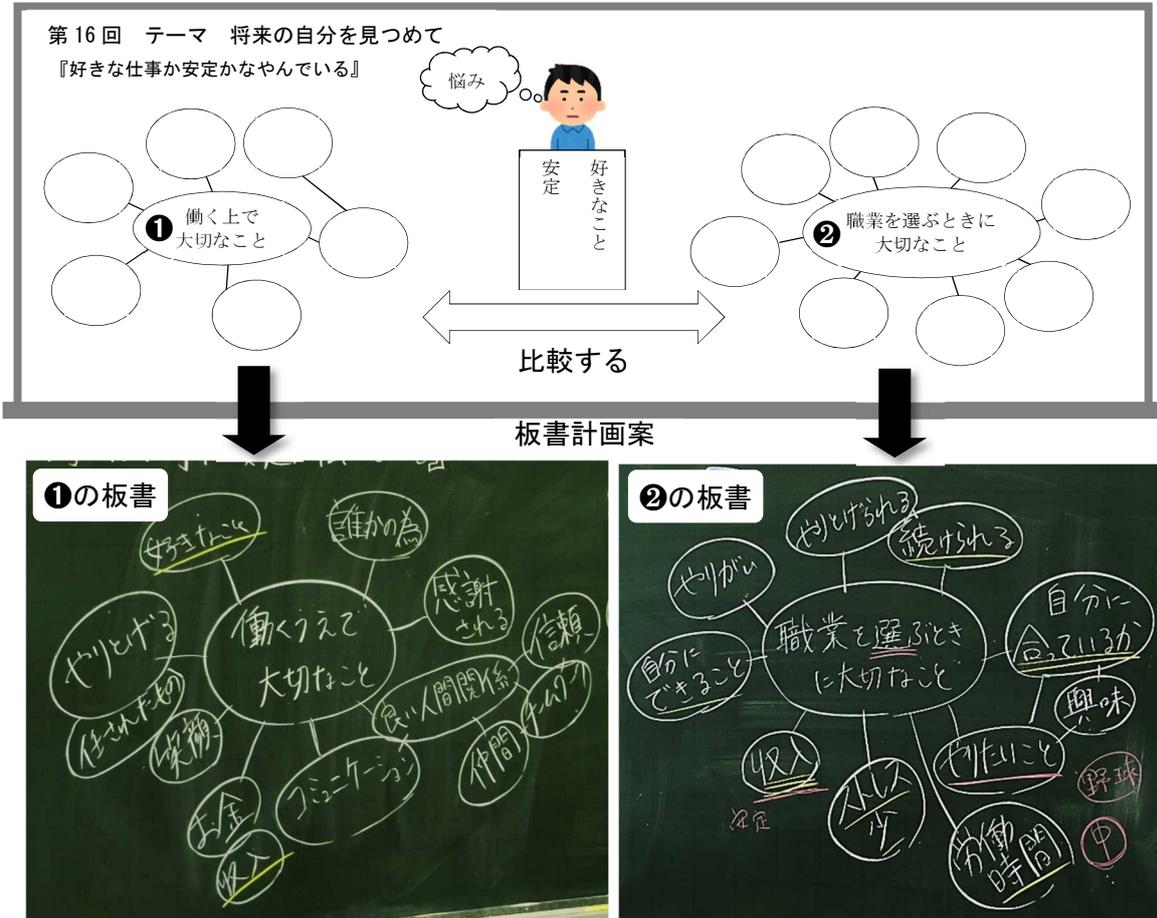
勤労には、自分の幸福を追求し収入を得るために働く、家庭の生活を維持するために働く、社会のために貢献する、社会の中で自分の役割を果たしていく等、様々な意味がありどれも重要である。生徒が勤労の尊さや意義を理解し、将来、職業に対してどのような意味を求めようか考えを深められるようにしたい。そこで、教材で示された4人の職業選択に対する意見を基に、多様な考え方を共有した上で、中心発問では、「将来、職業を選択するとき、大切なことはどのようなことでしょうか?」と問うことにした。

(2) 授業展開の意図と展開案

		○基本発問	◎中心発問	□問い返し
<div data-bbox="244 712 304 748" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">導入</div> <p>職業体験学習を想起させるとともに、三つの企業CMを見せ、働く上で大切なことについて具体的に考えることができるようにした。</p> <div data-bbox="244 1055 304 1090" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">展開</div> <p>四つの意見について、自分がどれくらい共感できるかを割合で示すようにした。その後、グループで意見を共有することで、働く上で大切なことについて、多面的・多角的に考えられるようにした。さらに、四つの意見それぞれに問い返しを準備し、揺さぶりをかけることで、意見を引き出せるようにした。</p> <div data-bbox="244 1650 304 1686" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">終末</div> <p>教師自身が職業選択の際に大切にしたいことを話してから、道徳ノートに自分の考えを書かせることで、自分は何を大切にしたいか考えを深められるようにした。</p>		学習活動		
	導 入	1 「働く上で大切なこと」について考える。	○昨年行った職業体験学習はどうでしたか?働く上でどのようなことが大切なのでしょう? (企業CMの動画を3本視聴する)	□働く上で大切なことを理解していれば、仕事を選択するときは悩まないで決めることができる でしょうか? 問題意識をもつ 自分との関わり
	展 開	2 資料から道徳的価値について考える。	○A、B、C、Dさんの意見の中で、自分の考えに近いのは誰の意見ですか。また、それはどのようなところでしょうか? 多面的・多角的	□やりたくない仕事に就いても、続けることはできますか? ◎将来、職業を選択するとき、大切なことはどのようなことでしょうか?
終 末	3 勤労について自分の考えを深める。	○自分が大切にしたいことを三つまで選び、優先順位をつけましょう。その理由や、その条件に合う職業も考えてみましょう。 人間としての生き方	3 教師の説話を聞いて、本時のまとめを行う。 ○学習を通して考えたことや気付いたことを、道徳ノートに書きましょう。	

3 授業の実際 I (板書の工夫)

働くことの意義について、出された意見をウェビングマップでまとめて示し視覚的に捉えさせることで、多様な意見を自分の価値観と照らし合わせながら考えられるようにした。



板書の様子



生徒の姿

導入で、生徒が考えた「働く上で大切なこと」をウェビングマップでまとめ、多様な考えや意見があることを視覚的に示した。(①の板書)

中心発問で、生徒が考えた「職業を選ぶときに大切なこと」についても、考えや意見をウェビングマップでまとめ、多様な考えや意見を視覚的に示した。(②の板書)

話し合いの際には、生徒はウェビングマップでまとめた板書を見ながら、それぞれの考えを比較したり順位付けしたりして、活発な意見交換となった。働くことの意義や将来の生き方に、多様な考えがあることに気付いたり、どの考えも大切なものであることを理解したりしながら自分の考えを深めている姿が見られた。

4 授業の実際Ⅱ（問い返しの工夫）

職業選択に関するA～Dの異なる意見に対して、自分の考えに近い意見を選択させ、それぞれの立場の考えに対して問い返しを行うことで、メリット・デメリットを考えられるようにした。

T : Aを選んだ人に聞きます。例えば、家を建てたり、結婚したり、おいしい食事をしたりするには、お金が必要じゃないですか？（条件を変えた問い返し）

S 1 : やりたい仕事をやれば、真剣にやるから自然とお金は入ってくる。

T : なるほど。お金が優先じゃないということですね。

T : Bを選んだ人に聞きます。やりたいことなら我慢できますか？やりたくないことを続けられますか？（批判的な問い返し）

S 2 : 仕事を続けていけば、自然と慣れてくる。

S 3 : 勉強が嫌いだけど、高校に合格するという目標をもてば、やり続けられる。努力できる。

S 4 : 好きじゃないこともやっていけば、楽しくなってくるかもしれない。

S 5 : 生きていく中で、全部が楽しいこと、やりたいことばかりとは限らない。やりたくないことの中に楽しみを見つけるかが大事になると思う。

T : Cを選んだ人に聞きます。もし、なかなか仕事が見つからなかったらどうしますか？（条件を変えた問い返し）

S 6 : 働いている友達や仲間を頼って、いい就職先を聞く。

S 7 : 親に頼る。

S 8 : 貯金して次の仕事が見つかるまでのつなぎにする。

T : Dを選んだ人には究極の質問です。仕事をしないという選択はありますか？（批判的な問い返し）

S 9 : お金があればよいのでは。

T : お金がなかったら？（条件を変えた問い返し）

S 9 : それはだめ。

T : そうだね、大変な問題だね。

S 10 : 人によっては仕事をしない選択もあるのでは。

T : みんなはどうですか？仕事に就かないというのではありませんか？（批判的な問い返し）

…挙手なし…

T : では、みんなは何らかの仕事に就きたいと思っているのですね。



生徒の姿

A～Dを選んだそれぞれの考えに対して、意図的に条件を変えた問い返しや批判的な問い返しを行った。「やりたい仕事をやれば、真剣になるから自然とお金は入ってくる」、「生きていく中で、全部が楽しいこと、やりたいことばかりとは限らない。やりたくないことの中に楽しみを見つけるかが大事になると思う」など、将来の夢や生き方等について具体的に話し合ったことを基に、自分が働く上で大切だと考えていることが明確になっていく様子が、自分の言葉でしっかりと話す姿から捉えられた。

5 本時の振り返りの様子

授業の導入では働くことに対して、漠然としたイメージしか持っていない様子だった。

授業の終末では、自分が働く上で大切だと考えていることについて改めて道徳ノートにまとめるのに、ウェビングマップに書かれているキーワードとつなげて考えたり、新たに「労働環境」や「自分の体力（個性）」などのキーワードを付け足しながら理由を説明したりする姿が見られた。この授業を通して、勤労の意義と自分の生き方について考えを深めることができたと考えられる。

● 組織的に取り組む授業づくり

充実した道徳科の授業づくりを行うために、調査研究協力校が組織的に取り組んだ実践を紹介します。

道徳教育推進教師の取組の工夫

○「全校生徒を対象にした道徳の授業」の設定

- ・生徒に道徳科のねらい、授業の進め方、道徳ノートの使い方など、道徳の授業について一斉に説明をしてから授業を行う。

○現職教育（校内研修）の活用

- ・道徳教育推進教師や授業研究会などの授業者が教師役となり、その他の教員が生徒役となって模擬授業を行い、中心発問や問い返しを中心に生徒の目線から検討する。
- ・道徳に関する研修会等に参加して得た情報などを全教員に提供する時間を設け、共有する。
- ・道徳科の授業について、学年単位で研究協議を行う。

（テーマの例）

- ・生徒が対話できるようにするための手立てや学習形態とは？
- ・多面的・多角的に考えるとどのような姿なのか、また、どのように見取ることができるか？
- ・自分との関わりで考えたりすることとはどのような姿なのか、また、どのように見取ることができるか？
- ・発問や問い返しによって考えが深まったり広がったりすることができるようにするための手立てとは？

教員同士の取組の工夫

○学年間の情報交換

- ・教材を吟味して考えた発問、効果的な板書計画やワークシートの形式の工夫など、空き時間や放課後などに意見交換をしながら授業の準備をする。
- ・自分が実施した授業の様子や学習活動の流れ、時間配分、発問や問い返し、生徒の反応などについての成果や課題について伝え合う。
- ・実施した授業の板書を写真に記録して共有する。
- ・授業での学習形態（ペア、グループなど）をどの学級でも統一して授業を行い、生徒の話合いの様子などについて共有する。

○授業参観

- ・お互いの授業を自由に参観できる機会を設定し、指導上の共通理解を図る。
- ・生徒の立場から授業を見るようにして、発問や問い返しの文言について感想を伝え合う。

時間設定の工夫

○学年ごとの空き時間を設定

- ・学年の教師同士の情報共有や授業の工夫改善についての話し合いをするために、共通の空き時間を設定する。

○担任している学級以外で行う道徳科の授業

- ・年に数回、教師が交代で学年の全学級を回って道徳の授業を行う。教師は、他の学級でも同じ教材で繰り返し授業を行うことにより、指導力の向上につながる。また、学級担任が自分の学級の授業を参観することが可能となり、普段の授業とは違う角度から生徒の新たな一面を発見することができるため、道徳性に係る成長の様子をより多面的・多角的に把握したり、学年全体の生徒を理解したりすることができる。

◇参考文献

- ・和井内良樹 「『特別の教科 道徳』について考える」『下野教育No. 759』（平成30年）栃木県連合教育会
- ・和井内良樹 「特別の教科 道徳」『授業が変わる！新学習指導要領ハンドブック中学校社会編』（平成29年）時事通信社
- ・浅見哲也 「令和元年度道徳教育指導者要請研修（関東・甲信越ブロック）」講師資料
- ・浅見哲也 「『考え、議論する道徳』が目指す道徳科の授業の姿」『初等教育資料 平成30年11月号』文部科学省
- ・浅見哲也 「要点整理 道徳科における児童・生徒の評価のあり方」『教職研修 平成30年5月号』文部科学省
- ・浅見哲也 「道徳科における主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」『初等教育資料 平成29年12月号』文部科学省
- ・浅見哲也 「道徳科における質の高い多様な指導方法」『初等教育資料 平成29年10月号』文部科学省
- ・浅見哲也 「学習指導要領改訂のポイント 道徳科」『初等教育資料 平成29年7月号』文部科学省
- ・永田繁雄 「道徳教育新時代！これからの授業を創る～子供が自ら「考え、議論する」学習のために～大泉発！第2回道徳科授業セミナー資料」（令和元年）
- ・永田繁雄 編著 「小学校 道徳 指導スキル全集」（令和元年）明治図書
- ・東京学芸大学 道徳教育研究会 「これからの道徳教育と道徳授業を考えるために〈道徳教育関係資料集〉」（令和元年）
- ・道徳教育編集部 「考え、議論する道徳をつくる 新発問パターン大全集」（令和元年）明治図書
- ・山田貞二 「中学校 道徳の授業がもっとうまくなる50の技」（令和元年）明治図書
- ・赤堀博行 「道徳の評価で大切なこと」（平成30年）東洋館出版社
- ・赤堀博行 「『特別の教科 道徳』で大切なこと」（平成29年）東洋館出版社
- ・押谷由夫 「対称軸、時間軸、条件軸、本質軸の視点移動のスキルを磨く」『道徳教育 8月号』（平成30年）明治図書
- ・初等中等教育局教育課程課 「『特別の教科 道徳』の学びと授業に対する教科」『中等教育資料 平成30年5月号』文部科学省
- ・文部科学省 「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科 道徳編」
- ・文部科学省 道徳教育アーカイブ～「道徳科」の全面実施に向けて～
<https://doutoku.mext.go.jp/>

◇指導助言者及び調査研究協力校

<指導助言者>

宇都宮大学大学院 教育学研究科 准教授 和井内 良樹

<調査研究協力校>

- ・宇都宮市立旭中学校
- ・日光市立大沢中学校
- ・那須町立那須中央中学校

「考え、議論する道徳」の授業づくり（中学校段階）

令和2（2020）年3月

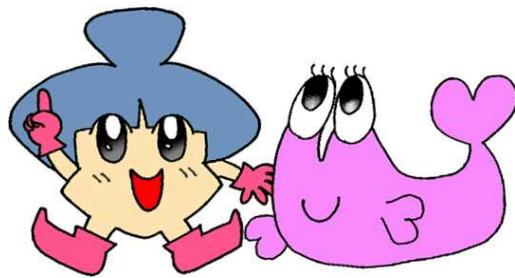
編集発行 栃木県総合教育センター

〒320-0002 栃木県宇都宮市瓦谷町1070

栃木県総合教育センター研究調査部

TEL 028-665-7204 FAX 028-665-7303

URL <http://www.tochigi-edu.ed.jp/center/>



本冊子は下の Web サイトでも御覧いただけます。

http://www.tochigi-edu.ed.jp/center/cyosa/cyosakenkyu/r01_dotoku/